Jan. 1892
no. 302

女學雜誌

第三百二號
明治二十五年一月三十日發兌

破戒僧
與雲與雨の術新發明
諸葛公を想ふ 社說
植木枝盛君像 弔辭
白雲漠々に向て質問す
葬儀花
總目錄を添ゆ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 302. JANUARY 30TH. 1892.

EDITORIAL:—Notes on Current Events; The Late Mr. E. Ueki.

LITERARY:—Selections from "Manyôshu" (Miriad Leaves); Uncle Tom's Cabin.

SCIENTIFIC:—Artificial Rain.

MISCELLANIES:—Relation of Crime to Sex; Resolutions of A.W.C.T.U; Woman's Club in London; Japanese Decorative Art; The 23rd Psalm Translated and Adopted (Unpô-shi).

THOUGHTS AND FANCIES:—Midnight Soliloquy (S.S.); Thoughts on the Sick Bed (S.K.).

CRITICAL NOTES.

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

REPORT from the "Evangelical Band in the District of Earthquake." Disaster No. XIII.

第三百二號目次

●社說　時感五則（勝敗黑白の機○諸葛公を想ふ○勤儉○心庫貯畜○敵中好男兒多し）。

●文學　大和の華（万葉時代の一）○アンクル、トムス、ケビン。

●雜錄　犯罪に於ける男女の關係○米國婦人禁酒會議決○英國婦人クラブ○日東の美術○詩篇第二十三篇（雲峯子）。

●隨感　深夜獨唱（方寸子）○病中雜感（山月子）。

●理學　興雲興雨の術。

●批評　新島先生一周忌○東海。

●時事　白雲淡々に向つて質問す○官吏養成○坂垣伯演說中止○文章今昔○破戒僧○文章家と歷史家○女學校極衰○葬儀に花を送る弊○撰擧に於ける婦人の關係○井上伯。

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

（リツトル。ロードフホントルロイ）

小公子

巖本善治妻譯

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネイ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ箸の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の徳を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼見に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを倘一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回し且倘は劇に演して非常の喝釆を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密畫十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一冊正價三十八錢。郵税八錢也

發兌元　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

女學雜誌　第三百二號　明治二十五年一月三十日發兌

社説

時感五則

○勝敗黒白の機

志士にして、方今の政機を察し、其結果を預想せざるものあらんや、苟くも多少の眼識を有せんものは、安くんぞ念頭今の政界に定見する所ろあらずとせんや。

斯く成りて斯く成るものと知り乍ら、一投足、一擧手して、敢て其渦中に躍入するは、即はち身を邦家に許す大丈夫の責任なりとす。諸葛未だ必らずしも出るに至らじ、從來政論に關はりたる良民は、今や斷じて逃る可らず。今は是れ諸子從來の大決算を定了すべきの期なり。

○諸葛公を想ふ

諸葛先生云く、臣本と布衣、自から南陽に耕やし、性命を亂世に苟全し、聞達を諸侯に求めず、先帝臣が卑きを以て鄙猥とせず、自ら枉げて臣を草廬の中に三顧し、臣に諮るに當世の事を以てす、是に由て感激し、遂に先帝に許すに驅馳を以てす、後ち傾覆に値ひ、任を敗軍の際に受け、命を危難の間に奉ず、爾來二十一年矣、先帝臣が謹慎を知る、故に崩ずるに臨みて臣に寄するに大事を以てせし也、……凡そ事如是き、逆じめ見る可きは難し、臣は鞠躬盡力死して而后ち巳む、成敗利鈍に至ては、臣が明の能く逆じめ観る所に非る也。………臣賦性拙直、時の艱難に遭ひ、師を興して北に伐ち、未だ全功を獲ず、何ぞ期せん病膏肓に在り、命旦夕に垂る、伏して願ふ陛下、心を清ふし、慾を寡ふし、己を約し、民を愛し、孝道を先君に達し、仁志を寰宇に布き玉へ、臣が家成都に桑八百株薄田十五頃あり、子孫の衣食自ら餘饒あらん、臣が身外に在り、別に調度なし、隨時の衣食悉とく官に仰ぐ、別に生を治めて以て尺寸を長ぜず、臣死するの日、内に余帛あり、外に盈財ありて、以て陛下に負かしめざる也、と。嗚呼、今や、何處にか此の賢相善將を見ん。

○儉勤

去年谷貴族院議員が發議に係る、儉勤尙武の題案は、二個の主旨を混交したるを非常の遺憾となす。吾人は、尙武の爲に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

儉勤せんとを欲せず、然れども儉勤其事を尊重するに至ては敢て人の后へに立んとを希はざるもの也。夫れ、勤勞と儉約とは、人世に立つ當然の義務なり、而して幾多の貝徳之より生起す。カウント、トルストイ、勤勞を以て其宗黨の骨髓となす、云く額に汗して働らくべしとの法則は、ニウトンが發言したる大眞理と均しき眞理なり、此は宗敎上の一大義務として、何人も必らず實行せざる可らず、イスラエル人が安息日を守る如く、クリスチアンが斷食晩餐を守る如く、回々敎徒が日に五度び祈るが如くせざる可らずと。フランクリン、精かに節用の徳を叙す、常に戒しめて曰く、節儉せよ節儉せよ、節儉すれば獨立汝が盾となり、甲となり、冠となる、此に至らば、汝が靈魂よく直立獨歩するに堪へ、絹布を着たる富める人の前に跪づくとを要せず、又ダイアモンド入の指環を穿ちたる手を以て財嚢中より濫に黄金を費やすともなかるべしと。然るに、今人は勤勞せざるのみならず、尙且つ用を節するとなし、百の不徳之より虫の孵くが如くに生ず。吾人つら／＼方今名士の成行を考ふるに、其不徳に流れゆく根元は、多くは怠たりて且つ奢るが故にあり。日本の富度に鑑みて、自家生計の格を定め、尤とも安全の度に立つて固く根礎を置ゆるの用意を存せず、暴りに門戸を張り、只だ外飾に奔走し、遂に借錢に衣食するに至る。アリストートル曰く、濫費するものは、暴收をもて償はんとを欲すと。彼輩之によりて彌よ急困り、獲るに方を擇ばず。此に於てか、賄賂、醜商の誘惑あり。其末路知るべき也。

吾人常に惟ふ、日本は未だ、洋館、馬車の時代にあらず、木造數室の舍、徒歩又は人車の便をもて十分に事足るの時世なりと。只だ虛飾奢費の風、上に吹ひて、下いよ／＼暴らし。今日に於ては、先づ官府、公顔子より、勤儉の美風を吹起さずんばある可らず。

密かに思ふに、經濟上の危機いよ／＼切迫し來る。邦家の前途に憂思するもの、安くんぞ大ひに警醒せざるべけん。

○心庫貯蓄

儉勤の功を說くに及びて、貯蓄の道を論ずるを可とす。而して貯蓄の中ち、心庫に係はる尤とも美なる貯蓄の存するとを忘る可らず。

黄金は勢力あるものなり、地位は賴毋しきものなり。然れど

も、黄金を以て至誠の人を買ひ、地位を以て眞愛の人を得るとは難し。然れども、至誠と眞愛とは能く、巨万の富を集め、無上の勢力を收むるとを得。

身外に財を積むものは、自らの身を信ぜざるものなり、人格既に卑やし、重んずべきの士にはあらざる也。吾人日夜自己一身の智德に進まざるとを憂ひとす。此一事に得ば足れり、凡々たる幾多の常なる事は、今ま顧みるに堪へず。

聞よ、大風近づかんとす、汝が耳未だ其音を聽かざる乎、見よ、大濤打寄せんとす、汝が目未だ其白波を認ためざる乎、預言者の聲は狂聲の如し、汝ぢ其聲を耳にして其意を心にすると能はざる乎。同胞深く自修すべし、鍛練未だ足らず、國家の大事先づ頭上に落下し來らば何如んかする。

○敵陣好男兒多し

社員川合氏は、天知君が評せし如く「肅然として内に剛火劍を帶び、恭しくして胸に自重骨を納むる人なり。」近頃ろ病中雜感を記す。其一に云く、

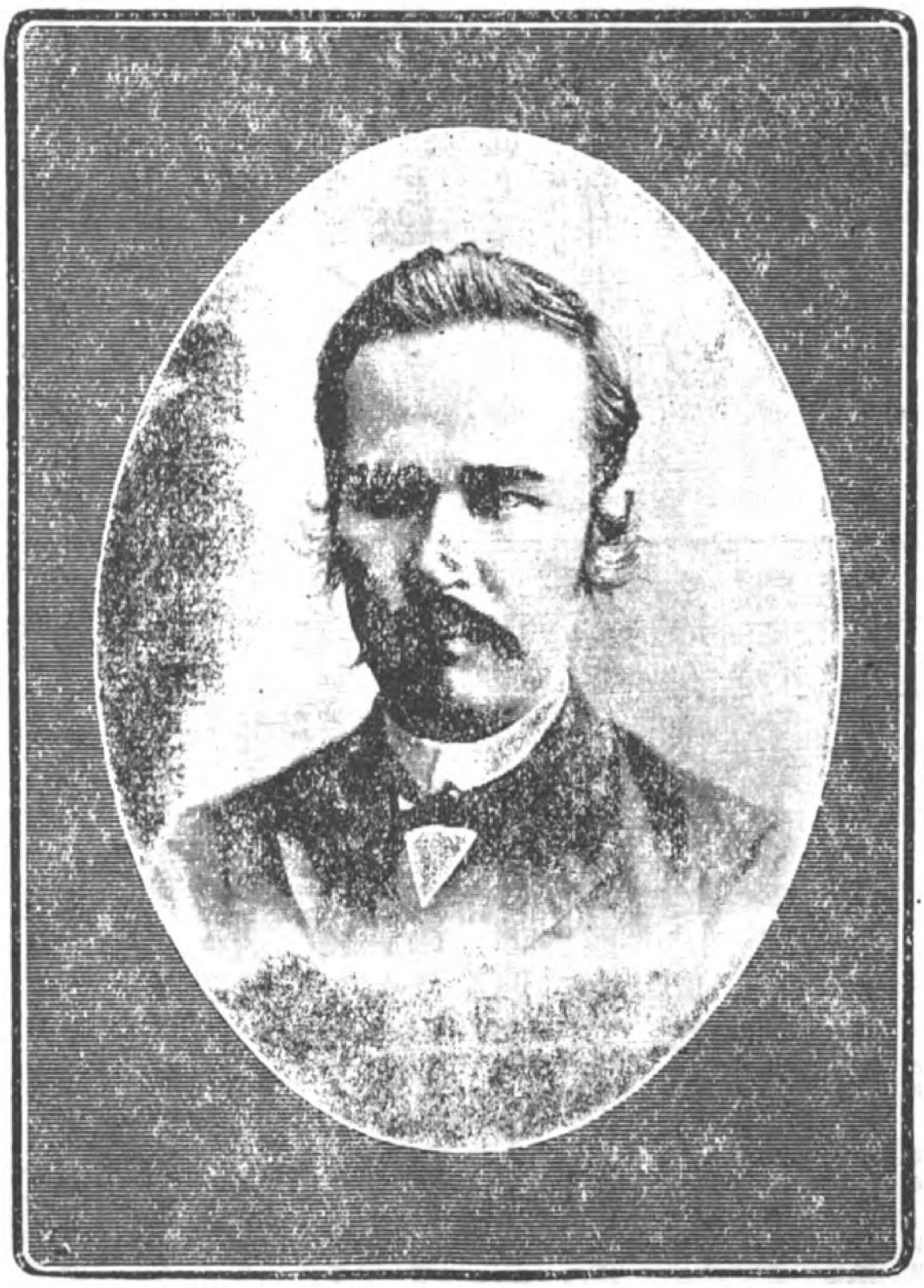
烈火と熱涙

我は初め義の布教者なりき、たゞ義以て人を動かすべしと信ぜり、義の爲に生き、義の爲に死すべしと思へり、自から任ず「活きたる義なり」と、靜然肅然風なき林の如し、而して無禮、誤解、等閑に觸着し來れば、石火忽ち迸しる、一點の假借なかりき。而して主の愛を知りて以來、混々たる清泉の如き涙、心に生ず、烈火と熱涙、胸中に一なり、之を我自身に於て見る主の奇跡とす。今や我、怒の情よりも、憐の情盛なり、火内に在りて妄りに發せず、涙却て溢る、我を誤る人の爲に、我を知らざる人の爲に、猶滴々の涙痕を袖にす、可憐の情、層一層を增す、嗚呼我の火よ、全く主の火たれ、我の涙よ、全く主の涙たれ。

是れ實に任俠者が靈變しゆくの趣を寫し、略ぼ眞を悉したるものなり。而して、眞とに好く「愛」の德を味はひ、其効を實際に行ひ得るものは、此流俠骨あるものに於て見ると多し。憐は愛に移り、俠はチエーステーを根す。一と度び任俠義敢の段階を經ざるものは、口に愛を語ると雖ども、能く之を用ゆるや薄し。此故に、吾人は今の國粹保存黨に望を囑すると久し。彼黨が一靈變を祈ると亦太はだ切なり。

植木枝盛君を弔す

自由主義の人にして、女子を重んぜざるは、一大矛盾なり、而して、自由論を主唱すると共に女權論を主唱したるは、君なり。女子を重んずるの人にして、公娼公置を放任するは、一大矛盾なり、而して、女權論を唱ふると共に公娼全廢論を主張したるは、君なり。君は、女學雜誌尚ほ幼なき時、既に女權論者の大先達なりき。君は、國中未だ一個の廢娼會あらざる時、既に廢娼建議の率先者たりき。其の愼密なる論議、其の雄厚なる達辨は、世人長久に忘れじ。吾黨は更に、君が女權論、廢娼論を永遠に紀念せんとす。自由主義の政論者は一大損失に遭へり、吾黨も亦た、女論、廢娼の爲に深く君が永逝を惜むもの也。



公賣淫廢止に付き高知縣會發議（女學雜誌第九十七號附錄）

賣淫公許禁止論（國民之友第二十號及第二十二號）

子婦と舅姑と別居すべき說（國民之友第三十二號）

民法上及び其他に於る夫婦の權利（女學雜誌第百七十一號）

一夫一婦の建白に付て辨する所あり（同第百七十七號）

東洋の婦女（佐々城豊壽女史出版一卷）

文學

大和の華

しのぶ

大和の華は櫻のみにはあらず。奥山の紅葉、谷間の姫百合、月に嘯ふく梅、霞の間ひの柳、雲を凌ぐ松柏など、亦た花と見るを得ざるにはあらず。余が一家の趣味は素より他人のと違ふとあるべし、余は一々之を辨ぜず。然れど、人ありて若し余が撰集に同情を表し玉ふあらば、物こそ言わね、獨り學びの窻の下に、涙をのみて慶せんとす。

（一）萬葉時代

舍子皇子御歌一首

ますらをや、かたこひせむと、なげけども、
しこのますらを、なほこひにけり。

博道法師住記伊國見三穗石室

いはかどに、たてる松の木、汝を見れば、
むかしのひとをあひ見る如し。

大宰帥大伴卿

この世にし、樂しくあらば、來ん世には、
蟲に、鳥にも、われはなりなん。

沙彌滿誓歌一首

世の中を、なにゝたとへん、あさびらき、
こぎにし舟のあとなきがごと。

釋通觀歌一首

みよしぬの、高きの山に、しらくもは、
ゆきはゞかりて、たなびける見ゆ。

大伴卿思戀故人

みやこある、あれたる家に、ひとりねは、
たびにまさりて、くるしかるべし。

悲傷膳部王一首　作者未詳

世の中は、むなしきものと、あらむとぞ、
このてる月は、みちかけしぬる。

家持失妻悲結未思

かくのみに、ありけるものを、妹もわれも、
千歳のごとも、たのみたりける。

額田王思近江天皇作歌

君まつと、わがこひ居れば、わがやどの、

すだれうごかし、秋の風ふく。

大伴宿禰百代戀歌

戀ひ死なん、のちは何にせん、生る日の、
ためこそ、妹、をみまくほりすれ。

大伴卿報凶問歌

世の中は、むなしきものと、知るときし、
いよゝ、ます〱、悲しかりけり。

令反感情歌一首、山上憶良

父母を見れば、尊とし、妻子見れば、めぐしうつくし、世の中は、かくぞことはり、もちどりの、かゝらはしもよ、ゆくへ知らねば、うけ履を、ぬぎ棄る如く、ふみぬぎて、ゆくてふ人は、岩木より、生り出し人か、汝が名のらさね、天へ行かば、ながまに〱、土ならば、大君います、このてらす、日月の下は、天雲の、向伏すきはみ、谷蟆の、さはたるきはみ、きこしめす、國の眞ほらぞ、かにかくに、ほしきまに〱、しかにはあらじか。

同かへし

久堅の天路はとほし、なほ〱に、
家にかへりて、業をしませよ。

同思子歌

しろかねも、こがねも、玉も、なにせむに、
まされる寶、子にしかめやも。

アンクルス、トムス、ケビン

ビーチャー、ストウ夫人が子、近頃ろ其母の傳記を一つの大ひなる美本にして著はし、世に示せり。中に、彼の全世界を驚かせ、泣かせたる秀麗の小說の出で來し因緣を記す。ストウ夫人、自から此の小說の事を、左の如く言へりとは傳ふ、此の書は、昔し生きて死し、今も永遠も生き玉ふイエス、キリストが、貧しき者卑き者の上に今も倘母の如き慈愛を懐き玉ひ、如何なる人もエス、クリストが腰を屈めて之を助け救ひ玉ふとの出來なるほどに墜落するとなしとの理はりを、示さんとて書記しぬ。然るにアメリカの奴隷の如き卑き貧しきもの他に何處にありや。法律は之を禁じて人たることを得せしめず、たゞ一箇の物件、又は他の人の財產物の如くにもてなす。又法律は之を禁じて、之に讀ましめず、書かしめず、財產を所有せしめず、契約を結ばしめず、正

当の婚姻すら之を行わしめず、法律は彼等の上より權を奪ひ去り、其心の中の妻に對しても、其肉を分けたる子供に對しても、夫たり父たるの權理を所有せしめず。故に、彼等は何事をも爲すと能はず、何ものをも與ふと能はず、何者をも得ると能はず、但だ其主人に從屬せざる可らず。左れど、かゝる奴隷の爲にも、イエス、クリストは侚ほ膝を屈め玉ひ、卑しまるゝとも汝ぢ懼るゝと勿れ、余は汝が兄弟なり、余、汝を贖ふが故に懼るゝと勿れ、余、汝を招く、汝は余がものなりと言まふ。

理學

興雲興雨の術

前つ年、鼎軒君と五郎君との爭ひも面白かりしが、此頃ろに至り、西洋人は、やゝ綿密にして學術的なる發明を爲し、現に人工にて大雨を降らせたり。其報せ左の如し。心地よき談柄なり。試みし人は、米國テキサス州農學部の人なり。

昨年の末米國「ワシントン」府農學部の發起にて「テキサス」の地方を撰び人造降雨の試驗をなしたるに是事國內に聞えてなか〳〵の取沙汰となれり元來空中に發砲して大氣の激動を生ぜしむる時いかなる水氣と雖も空中にあるものは悉く地上に落つるといふこと既に人の知るところなるに是度農學部試驗の人造降雨は數週間照り續きて空には一點の雲もなきところより忽ち雨を落すの試驗なればなか〳〵に人の心を動かしたり、そも〳〵斯降雨法を目論見たるは「イリノイ」のファーウエルといへる人にて曾て試驗の執行を出願中なりしが遂に許可を得て「テキサス」に試むることゝはなれり是日試驗の爲モリス氏の地內に集りしは斯道に熱心なるダイレンフオース將軍を初めとして技師パワー氏化學博士ラッセル氏氣象學者コーチス氏電氣學者ドラパー氏書記エリス氏輕氣球取扱人カスラー、マイヤーの二氏及び統計家キーハー氏の人々なり先づ地內に一の小屋掛をなして空中に破裂せしむべき輕氣球に水素散素を充滿するの用意をなせしが時しも孟夏三伏の日にて天氣まばゆき迄に晴れ渡り空に一點の雲の影もなく西風わたりの水氣を拂ふておもむろに人を吹くに見るみる五個

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の輕氣球は遙かに空に上りしが忽ち破裂して下に落つるや之と同時に「ダイナマイト」百五十「ポンド」彈藥二百「ポンド」を地盤に投じてどうと鳴る響の中に破裂せしめたり兼て用意のとゝのひしことゝて視察用の爲に作り置きたる輕氣球はこなたの半天に打ち懸り凡そ三四時間も其處に留りて見てありしが頓て五時間を經しと覺ゆる頃黑雲むら〱と天の一方に顯れ來りこれより一時間を經ざる內に大雨沛然として盆を覆へすが如くあまつさへ凡そ三時間は雷鳴電光すさまじかりしといふ其後「テキサス」にて五度も降雨を試みしことありしが一として思ふまゝならぬはなく近傍百姓の喜びは一方ならざりしとぞ。

この降雨につきダイレンフオース將軍は其理を人に說ていひけるは凡そ降雨とは地上の空氣の冷たきものと熱きものと相觸るゝの折に起るかく相觸れて互に混合するやとゝに水氣を吐き出して遂に雲となり化して雨とはなるものゝ故に今たかき處より忽然彈藥を破烈せしむれば大氣之が爲に激動して遂に雲を呼び雨を起すされば是度も彈藥破烈の後思ひがけざる輕雲より大雨の降り來るを見しものなりといへりとぞ。

雜錄

孤見院の大父

ジヨージ、ミラーの報告を讀む

允に神をうやまひ奉りて赤心忠誠の昭かに天をつらぬきしためしは英國「アシユレー、ダウン」に孤兒院を創立せしジヨージ、ミラーの傳記にぞあきらかなる。渠がそのわざを興せしは今より五十七年のまへにあたれり未だひとたびも世の人にうちむかいて義捐をもとめしことあらざれど曾て五十七万五千金にて兒院を修めつ今日までも之をやすらけく維持したり或は朝夕に食ふべきものなく或は資金の盡きたりしこともいくたびか、されどもかゝる度ごとにミラー氏は一家のものをあつめて共に救濟を天の神にぞ祈りてし見よ〱天の斯良民を泯したまふことなきぞ。

このたびミラー氏は五十二回目の年報をぞなせるが中に今いへにある孤兒の數二千五十八人にて過にし一年のあいだ費用總計十一万四千七十五金なりといふ、そのとしのはじめつかたは平均二万三千二百四十五金にてありしが後には八万九千二

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

百八十金に上りぬ、これをもて日ごとに二千の饑兒をやしなはんとするはまことに難きわざなりけらし、されどミラー氏は衷心かたく上帝の守護を信じ天の錫ふところにぞ命を安じける嗚呼いはがねをもとほすべきその誠心は渠が自筆にて千八百八十七年「クリスチヤン、ヘラルド」より出版したる孤兒院の記を見て知るべし。

ミラー氏は其年報において丁寧にこゝろざしを寄せたる人々の物語をなせしが寄附の性質のなか〳〵にめでたきもの少なからず百金を送り越せしなにがしの寡婦の書のうちに「これはわたくしの母のかたみにもとおんおくり申しあげそろ、母が一生のうちわたくしにわたへくれそろ感化のふし〴〵は夢にもうちわすれ申せしこと侍らず、その祈禱のこゑはおさなゆふなわたくしにつきそふごとくおぼえ申しそろ、別紙百圓おんおさめくだされたく、くれ〴〵もエスのおんわざに通ひたらんこのとうとき天職のためにおんこゝろをそゝがれ給へかし」とあり。又は「神の爲にぞ一命を拾ひてし我微志を表せんが爲に金十「パウンド」差送申候間何卒貴院御費用の中へ御受納被下度候」とこそいふもありける其他かゝるめでたきたぐひの寄附をなせる人々はその數を知ずといふ。

犯罪に於る男女の關係

ウイリヤム、ドウグラス、モリソン氏、其近著「犯界元因論」中に、罪を犯すとに於ける男女の關係を論じて云へらく、

あらゆる開化國の刑事表を通覽するに、女の犯罪者は常に男性のよりは少なく、童女の犯罪者は男童のよりは少し。ことに歐洲諸國にては、其割合男子五六人に付女子一人の割に過ぎざるを常とす。左れど、其犯罪の性質を考ふれば女の罪は格外に殘酷暴逆にて、驚ろくべき趣向に出づるもの極めて多し。クエーリー、クエトレツト氏等の研究によれば、佛蘭西の女は男よりも多く見ころし、毒殺、などの罪を犯すとなり。又英國の刑事表によりて考ふるも同樣の趣きあり、即はち尋常些細の罪に於ては、女は男の一割七分にて、人ごろし又は謀殺未遂などの罪に於ては、その五割六分に當ると云ふ。

扨て、女は何故に男よりも罪を犯すと少きかと云ふに、大抵家にありて世の辛き目にあふとの少なきと、子を育てゝ愛情を發達し、男子よりは道德上に進み居るが故なるべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

故に、歐洲諸國の中ち、女の犯罪者尤とも多してふスコットランドは、女が男と同じく勞働すると行はれ、殆んど男子に似たるほどの辛き世の風に際遇するより、女は自然と男に類するほどの犯罪者となれるなるべし。

故に、ジウル、シモンは前年、ベルリンに開きたる勞働會議にて秀拔なる演説をなし、其結末に於て特に有益なる一言を殘しぬ。云く、余が此の勞働上の制規を嚴しくせんと云ふは、女を其ホームに返し、子を其母にかへし、家と云ふ尤とも神聖にして人の德性を發育するとの多き塲をして、尤とも美なる敎育を成さしめんとを欲すれば也と。而して女はつねに此にあるものにて、自づからなる德育の敎師なれば、其犯罪の度も男子よりは少なき也。道德上に於て既に高し、天然何故に之を劣れりとする乎。

倫敦に於る女子の倶樂部

さきに米國女子の倶樂部事業につき其一斑を讀者に紹介せしが今エリザベス、ベンチル女史の一文を譯出して英米二國女子趨向の相違を示すになむ。

今日の今日まで倫敦に設けたる女子の倶樂部にて社會のうへに一勢力を占むるものありさは言ひがたし、時には何圓何錢さいふ金銀に會員の資格をさだめて家内の德操を問はざるようの場合なきにしもあらずさ聞く、されど是等の倶樂部はおの〳〵長處さすべきものありて近年女子の眼界の次第に濶くなりゆき社交上昔時の區域をいでゆくさまを見るに足るべしもさより事務の基礎の上に立てる倶樂部さいふものなかりしにあらず誠に蛹化の姿なりしがこれら女子の設けたりし事業は世にいふ男子の意味の倶樂部さは相違して女子の進步を我眼前の的に置きたりピカヂーリのアルベマールさいふ町に名の如き倶樂部あり社交上よりいへば先づこれを第一におくべきか、倫敦のたちにて最もみやびたるさころに大廈をかまへて會館さなせし程なれば隨てその費用も莫大也世に「アルベマール」を指して純粹の女子倶樂部中に數ふれど元來男女共同の性質なるにより今この問題のもさには來らざるものさすこの「アルベマール」にくらべて一入急激なる倶樂部のうち例へば「ナショナル、リベラル」ようのものありて男女共同の特色を示せども問題の外にわたる故こゝに省きつ

右に比ぶればグスロベイル、ストリートの「アレキサンドラ」ハ女子の設けし純粹の社交倶樂部にてあるべし、これは都門にて相應の身分ある婦女子の團結にて男子がこれまで倶樂部にて得たりし快樂さ便利さを女子にもさいふ目的に出で應接室讀書室寢室食堂の設けあり門限を午后十時ささだめ宴會にてもあるさきは特別に十一時迄さいふなゝき赤兒を伴ふさきは必ず應對室に入らしめ小兒さいへども二人以上の同伴を許さずつさめて館内の靜肅をはかるさいへば、これを男子の倶樂部に比べて其相違いかばかりおかしからん、「アレキサンドラ」の世に知らるゝは應接の御院より出入をさゝめられし女子の入會を許さゞるにあれど其的はあまり身分なき會員を好まざるにありて其ためには入會金五「ギニア」年保證金同額を納めしむることゝなれりこの倶樂部がその目的に到りしやいなやは創立七年來に會員の數八百四十二人となりしを見ても知らる。

こゝに又「ユニバーシチー」倶樂部といふものあり應接の御院の「アレキサンドラ」との關係を是には大學にかへしのみにて入會を許すものは各大學校の卒業生「ケンブリッジ」の「ギルトン」及び「ニユーンハム」大學もしくは「オックスフォード」の「サマービル」及び「レデー、マーガレット、ホールス」に三學期以上在留の教師並に生徒等にて特に倶樂部より招きしものを除きては一切他の女子の入會を許さずといふ大學の卒業生は應接の御院に比べて其數の少なきより隨て會員は「アレキサンドラ」の如く多からず殊に學生の金に乏しといふは世の常のようになり居れば保證金及ひ入會の一「ギニア」つゝなるもおかし會館はボンド、ストリート構造にて讀書室食堂として少さき方なれど之がために會員和樂のもといとなりしこと一方ならず近來資産の増したるが爲一入大なる館に移らんとするよしを聞きておのれはのこりおしきことに覺えしか。

凡そ倫敦の如き大都のことなれど家産の少きより以上「アルベマール」「アレキサンドラ」又は「ユニバーシチー」に入會を得ざる女子の多數なるも推して知らる、かゝる輩は「ニユー、サーマービル」に一の倶樂部をもてり會費一年わづかに十「シルリング」にて保證金も同額なりといふ、されどこの會館はオックスフォード街の中央にありて其の書籍室の如きは見るに堪たるもの多し館内一の「キッチエン」だにあらざれど茶咖啡鷄卵冷肉は近きほとりより取よするの都合ありといふ元來該倶樂部は只社交的のみに止らず火曜日ごとに緊要なる問題につきて討論講義を開き其折には名ある人々をも招きて其臨講をもとむといふ討論の問題には「ジョージ、サンド」の如きものあれば「小兒の教育法」といふようなるものもあり例として毎月一回大會を開き會員は八百人を越へたりといへり。

さはあれどこゝに「アレキサンドラ」もしくは「アルマベール」の高きに過ぎ而して「サマービル」をも好ましからぬ女子少からざればかゝる人々の爲に更に「パイオニヤ」倶樂部といふを起さんとするものあり。

以上は倫敦にて女子の手になれる倶樂部のうちの見るべき者なりかし其他目的のひくかるとも快樂と利益とにて反て勝れるもあるべく「デニソン」倶樂部の如き生産的のものもあるべし（美術倶樂部慈善樂部裁縫會勞働女子青年會のごときもあれど今一々にえあげず）蓋し同一なる趣味傾向の女子にして早晩相集るの必要あるは免る可からざるところなるべしと思はれて、かくなむ。

米國婦人基督教徒禁酒同盟大會に於て

決議したる條々

米國婦人基督教徒禁酒同盟の大會は昨冬十一月十一日（火曜）米國「ポストン」府故「ファーニール」亭に開會し同月十七日（火曜）に閉會を告げたり（初會の模樣は昨年々末の女學雜誌に見ゆ）左に譯載するは委員會にて起草したる上會員一同の贊成を得て議決したるところの條々之。

謹て我等米國婦人基督教徒禁酒同盟會々員は今この十八年回大會に相集りて過ぬる年の間萬國に散在せる婦人基督教徒禁酒會の爲せる進歩の上に我上帝の照臨し給へることを謝し奉る我等は又婦人禁酒會並に會員の各處に續出して斯道の爲に力を竭さんとするもの多きを加へたるを喜ふ我等は一個の團結として道徳界の大なる改革を行ふが爲に敢て我上帝の命を帶ぶることを確信し之が爲には非常なる個人の靈力と献身とを要することを豫期せり是に於て我等はこの目的に到着せんが爲に自由進歩の基礎に立ちて天命と人情とに協ひたる我禁酒事業の擴張を圖らんとす焉ぞ舊年に倍したる誠悃を借してこの道の前途を思はざらんや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一　個人的並に國家の成文律上に禁酒を斷行するは我等が事業の主旨なるが故に

（い）我等は諸方支部の事業に向て是大問題の兩面を推薦す

（ろ）我等は本會の素志に基きて禁酒の主義を抱ける會合に同胞姉妹の歡情を表し且世の資本家が禁酒をなしたるが爲に反て財政上の利益あることを了したる實例を見て本會の爲に之を祝す

（は）我等はかの「ワシントン」府基督教大學校が禁酒を公認して「ファーザー、マーシュー」の教授職を設けたるを慶賀し又吾大統領の忠告によりて亞米利加大學校に「婦人基督教徒禁酒會、ツエ、ピ、ツ」の教授職を設けたるを祝福し併せて諸方高等の教育を授くる所に科學的禁酒の講義科を設けんことを切望す

二　（議決）我等は一層黽勉して「神」なる爵の法則的緋解を求め殊に我姉妹をして誠實なる傳道者となるに適せしめんが爲に萬國婦人基督教徒禁酒同盟會の執れる傳道的の方針に向はんことを切望す

三　（議決）我等は初より昏倒せる醉漢に對して藥石的救療法に思想と力とを盡すものなれども亦其心中に過去の惡念を驅除する時は上帝の影を宿し奉るべき天幸を說き薦むる事

四　我等は一國の政事上に關して之を淸潔ならしむべき女子感化力の必要を認め殊に女子投票權は女子の權利を擴張し禁酒を斷行するに最も必要なりと信ずるが故に

（議決）我等は政府部內に於て女子の權利を得べき方法を講窮し且又全教會の聖徒に向ひ說教壇上に女子の同權を問ふべき事

五　社會並に政府の形勢は政事上の局面と相倚るものにして不正なる政府の信用尊敬を有す可き理なければ

（議決）我等は敵の强弱を問はずして必ず禁酒會の方針に反對する政黨を攻擊すべき事

六　（議決）故に我等はかの政黨にして女子の保護者となり禁酒の主張者となり尤に聖旨を開陳するの黨を吾眞友となし我等の勢力を割與する事

七　夫れ淸健の體は謹厚の心と相待つものなるが故に身體の健全自重を旨となすは我等が改革の事業に於て基礎ともいふべきものなれば

（議決）我等は最も身體の發育を害する衣服の流行に反對し且又生理上の教育と勞働的の熟練學校とを教育法の一部分となす可きことを望む

八　造酒を贊成する法律は天理人情に背くもの也我等は是問題を定めんが爲に之を合衆國高等法院に問ふ事

九　殆ど各聖教會は我個人的禁酒論と並に憲法上釀酒禁止の說に左袒せり蓋し教會と酒樓との間に神聖なる通路のあるべき筈なければ

（議決）我等は各教會員をして其宗教上の責任の爲に投票建案をなすの必要あるを知らしむべき事

十　（議決）我等はかの地方局が釀酒家の請願を容れて南亞米利加並に西班牙領の合衆國領事に回狀を送り「ビール」の貿易を盛ならしめんが爲に國內の酒況取調を命じたるを見て極て之に反對す而して我等は米國現政府の地方局が罪惡不德を製造するの具となりて反て自らあやしまざるの意を問責せんとす

十一　米國政府認可學校「ホエアトーズ」は我等自由主義の讐敵也我等は不羈平等を以て自ら任ず是故に世の壓制の事物に反對す

十二　（議決）我等は同志ラマバイが印度に於て年少寡婦の爲に教育の事業を企圖せりと聞き敢て神恩の深きに感ぜずんばあらず今我等の祈禱と同情とを以て其企圖を輔翼せんことを庶ふ

十三　（議決）

（い）我等は煙草賣捌人が廣告の爲に女子の寫眞繪を用ひ殊に卷煙草の函中に卑下なる「カード」を挿むことを責めむ

（ろ）我等はかの演劇の番附面に猥褻なる態度を畫きたるものと滔滔として社會を腐敗せしむる醜文字の印行と新聞紙に治療上の報告をなすものとを責めむ

（は）我等はかの貧なるが爲に食を得んとして卑猥なる圖畫を集め之を私賣する婦女子の極て害毒を世に流すものあるを責めむ、もしくは流行の客間

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に於てみだりがはしき衣服の着方をなせる婦女子に至る迄も

（に）我等は天下の公衆が極て一般の教育に注意し禮儀を正ふし風俗を清ふして斯の如き害毒の源泉を絕ち公私を問はず道念のいや高からんことを切に祈る

十四　我等は曾て女子並に少年の爲に企圖せる事業に協力し貧兒の爲に兒院を設立することゝ敎育の普及せざるところに學校を起すことに贊成せむ

十五　（議决）我等は世の良民と共に「ロイジアナ」の無盡に反對す

十六　かの酒樓の組織なるものは反て資本家勞働者双方の不利を來すこと明かなれば

（議决）我等は極て詳細なる統計表を作り禁酒をなさゞれば反て兩者共に莫大の損毛を招くことを說明する事

十七　夫れ印刷の業は國民敎育の一大機關なるが故に

（議决）我等はかの高尙なる標準を有せる印刷物を歡迎すると同時に好で罪惡を抽畫し醜面を暴露し吾少年の心を過らしめ其德を敗らしめ引て家族に及ぼす如き文書の絕版を切望す

十八　（議决）我等は萬國婦人基督敎徒禁酒同盟會設立について本會派遣世界漫遊傳道者なるマリー、クレメント、リービットが八年間諸國の山海を拔涉し恙なく神護に沐浴することを感謝せずんばあらず我等は又無限の熱情を以てヘンリー、サマーセット女史並に務友ハナ、ホワイトール、スミスを眼前に歡迎す其他萬國婦人基督敎徒禁酒同盟會々員の來りて此席に列するは實に我等が「インスピレーション」の導火となり其心胸を語るを聽けば我等が勝箕の疑ひなき自信を强からしむるものなるを知る

十九　（議决）我等は婦人禁酒出版會に於てこの大事業の細大を報導するものなれば會員を力めて我印刷物を世に配布せんことを望む

二十　（議决）我等は本會の機關として殊に「ユニオン、シグナル」を有するものなるが故に庶幾くは其傳のいちじるからんことを。

日東の美術

一月二十三日刊行の「東京メイル」に記載せし「ゼ、デコレチーブ、アート、オフジャパン」と題する英人某氏の一論文より抄譯す。

瀛西の彼岸に立ちて日東の趣味に吻を容れむとするものも若し眞個に之に通ずるの後にあらずんば反て是れ美術の罪人といふべきかな。

うらゝかなる天氣を選びて德川古廟の院內を逍遙し將軍家の記念として三百年前の舊夢を葬むれる美術の奇跡を仰ぎ見る時は瀛西の天地にありて想を東のはてに寄せたる當時の謬見を悲まざるものあるまじ近頃英國の美術家にていたく創作の工風に凝り先づ其調子の「ユニチー」とならぬを力め、なるべく不規則といふものを耕して癖性の次第に發達すると共に美術の品の之にともなはんことを計るものあるを見たり余は當時「日東風」とはかゝるたぐひを言ふにやと思ひしのみ左迄に概念の高尙にして丹靑の妙をつくし墨の跡のさながら流るゝが如きものありとは知らざりし、されば一度このめでたき島國に渡來して昔にまれ今にまれ其美術を應用したるさまを見はじめてあり〳〵と其本相のひかりに接したる心地し、このあなたに向ひては趣味の妙なるを思ひ、こあなたに向ひては感

化の頗る不思議なるに驚きたり、誠や晨朝しづかなる時增上寺門前に到りて見よ蒼々たる古色眼の前に落ちて過にし昔の美術の聲は見る者の幽寂ある「レフレクション」(回想顧念)を呼び覺さなむ路頭にひさげる玩具のたぐひすら神燈の形なるもおかしからずや然れども過去の美術は神祇釋教のさかいに限りしものに非す反て日本の粧飾術は「ホーム、アート」(家内美術品)ともいふべくして日々の生涯を樂しからしめんが爲周圍のものを取て之を美のさかいに送ると見へたり。

こゝに今の美術は奈何に、其本性はすでに滅びしものかと問はゞ余はしか思はずと言はむいろ〳〵の原因よりして或は今の美術心の過にし昔に劣れるもあらむ唯其心の内に強くして存外肉の外に弱かるのみあり勿論晩年の作と雖も天地の美の影を追ひつ概念工風のすぐれたるものなきにはあらず然れども古風の優美高尚なるに及ばざるもの甚だ多かり。

思ふに日東の美術が其うつくしき自然の周圍より採り得たる「インスピレーション」は之を吾瀛西に比べて反て前者の勝れるを見る亭前の窓を開きて富嶽の無限なる「ビユーチー」に對するは詩仙書伯の得意なるところにあらずや櫻花一枝を壁間にさしはさむは美術創作家の「モノトニー」を忘れしむるところに非ずや英人の謹嚴にして石の如き脳髓を以て日東の民の洒落なるを想像せんとするは木によりて魚を求むるのたぐひなるべし。

(原文更に洒落の日東人民をあやまる所以を説き家屋衣服の變遷に論及し粧飾術の本旨に入りて日東人民は「ピクトラル、アート」を粧飾に適用することを好むといひ瀛西の文明もしくは其審美的標準の未だ是國民に知られずと嘆ぎ更に美術の外形のくに〴〵にて相違するとも其内部の幽玄なる風情に至りては萬世不易なることゝ歐州美術の遠く古代に淵源することを論じ日東人民の趣味を批評したり)。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

詩篇第二十三篇（押韻）　雲峯生

（一）

わが住所をば　そなへ給はむ　わが神は。
牧者のごとく　守り養なはむ　我身をば。
　わが乏しきを　みたし給はむ　神在さば。
　絶ゆる暇なく　最ねんごろに　見給へば。

（二）

歩むおりにも　氣つけ給はむ　ひるのほど。
ねふらん時に　守りたまはむ　よの間にも。
身も堪かぬる　やけの丶原に　果べきを、
草木も見えぬ　かはける山に　悩めるを、
　あゆみ疲れて　さまよふ時に　神は見つ、
　ゆたかなる谷　露おく野にぞ　導びきぬ。

（三）

みどりも深き　四方のけしき　美はしく、
いと靜かにも　きよき小川ぞ　流れける。
憂き災禍ひは　奈にかず〱　迫るとも、
ひかり照さぬ　死かげの道を　歩むとも、
　強くなりける　我こゝろには　恐れじな、
　アヽわが神よ　汝れは我身と　共なれば。
いとも嬉しや　愛くしみぬる　汝が笞杖。

（四）

汝れに導れつ　われは免れぬ　禍はひを。
途方にまよひ　寂しき野邊に　ゆき悩み、
人あと絶えて　壊れしみちを　たどる時、
　汝が憐れみは　わが乏しきを　惠むらむ。
　瘦地となりて　荒たる原野も　打笑まむ。
みどり滴たる　草木のかむり　裝ほひて、
岩間にむせぶ　あたりの小川　細語きて。

附言　こはアヂソンが詩篇第二十三篇を譯せるを今余が再譯せるなり、五七若くは七五の調を用ゆれば言語不足にして一行をもて英詩一行の意を傳へ難し、さればとて行數を増加すれば或は言語の數多きに過る所あり、此に於て余は七七五を以て一行となせり、原意を傳ふるに畧ぼ恰適せるが如し、二行を一韻とせるはアヂソンの譯に摸せるなり、一節の行數も亦然りとす。

之を現今の聖書に比するに此詩の第一節は聖書の第一節に、第二節は第二、三節に、第三節は第四節に、第五節は第五、六節に附合す。

有名なる某說敎者此第廿三篇につきて云へる事あり、曰はく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ダビデの詩篇中此短篇の絶妙なるに如くものなし、是たゞ彼れ靈魂が瞬間の聲なり、然れども恰も是北風肌を刺し、嚴寒身に迫るの冬夜、荒街を彷徨する時路傍の一家忽然戸を開き、以て迷路者を招き、瞬時燈光暗中に洩れ、數人の小兒は活潑に疾走して來者を歡迎し、戸内の音樂優々耳に快きが如し、ヨシ戸は忽ち鎖され、暗黑舊に復するも遂に亦目と耳と心と想像とを鎖すべからず、見聞せし燈光、音樂、小兒、家庭は腦裏に印して消ゆべからず、此篇亦然り、只夫れ暫時の讃美なり、然れども篇中含有する平和安慰の眞理は萬代世に存して滅せず、此一篇が悲愁失望の人を慰むること古來の哲學より多し、鐵窓の下不幸者をして惡念、疑闇、悲痛を去らしむる事濱の眞砂より多く、貧民窮者之によつて安慰を得、失望落膽せる人之によつて勇氣を得、病める者、捕はれ人、寡婦、孤兒に平和満足を與ふる事、限りなし、死せんとするの兵士此篇を聞て安かに死し、暗鬱なる病院爲めに光明を得るが如し、囚徒の鐵鎖を切斷し天使の如く彼をして夢裡に樂園に入るの思あらむ、豈絶妙なるものにあらずや云々と、余が今譯出するも徒爾なりとなさず、讀者先づ舊約書にて此篇を一讀し、而して後乞ふ更に余が譯せるものを讀め、そは余の拙なるが爲め意義或は明瞭ならざるものあるべければなり、若夫れアヂソンの譯につきて味ひ給はゞ更に可なるべし。

隨感

深夜獨唱

在故山　方寸子

わが至誠至れるに非ず、至らずと云へど其うち亦、及ばぬ丹心の盡すなからんや、敢て信じて道を説く、説けば陰柔の笑語、坐を聳やかして出づ、禁じて禁ぜず齒にて齒を償ふ勿れ、忍びて忍びず目にて目を償ふ勿れ、勃焉として快刀一閃す、暫らくにして云ふ、汝ぢの敵を愛せよと、敵とし得おもはず奚んぞ悩まん、但だこれ短識無罪の傍聽を迷はすを奈何、自問自答して、辭して門外に在り、感極まりて天に嘯くの時、人影わが傍へに加はるを見ぬ、鳴呼、惟れば天道は人情に合し人情は天道に聯る、今夜まことに感ず、丹田の意氣靜まつて湛然たり、之が友を得しの喜びは、友がわれを見しに比

ぶべきか、歩々相携へて寒月に語る、心充ちて口に出づれば、口は、直ちに友の中心に徹す、友は楚々として拙く答へど、反響の喜びわが心底に嵩る、奇しきかな嘲笑の裡、今夜友を得んと、見渡せば、白雪皚々として万目の効野晝を欺き、宇宙今や眠りて何者かわれらの上に耳傾くるの心地す、歩して語り語りて歩す、そも何をか語る、夜は寒きも胸熱して冬を忘れ、路遠きも心は猶ほ近きを恨む、友よ必らずや信ぜよ、君よ必らずや助けよ、友よ起て神在ます、看よわれ罪あり願くば祈れ、一揖して默し分る、此時謝念湧くが如く、歸路幾百歩の頃、淡影相顧みて心通を語る、莞爾として仰げば、寒月皎々として塵外に高く、蒼穹渺茫として奥妙に懸る、風何處夜氣沈々として天地聲あり。

○神の前と人の前　　合川信水

神の前に恐なく耻なくば、人の前にも恐れなく耻なきなり、此前提を誤りて、驚くべき結論を實行す、礙く者多々、是に至りて愕然たり、是れ豈思慮足らざる信者にあらずや、パウロ曰く『愛は人の益を圖る……………凡そ事包容』と、孔子曰く『父爲子隱。子爲父隱。直在其中』と、『神の前へに父の缺點を訴ふるに憚からざるが故に、人の前にも亦之を憚からずといふ、孝子の情といふべき乎、神と、信ずる人との前に言ふを得るが故に、信ぜざる凡ての人の前に吹聽するを恐れず、耻ぢず、躊躇せずとなす、是れ光明正大の人乎、我は幾度か信者の人を礙かせしを見たり、嗚呼我は礙を來さゞるを願ふ、パウロ曰く『我は主イエス――に由て凡の物潔からざるなきを知かつ之を信ず然ど人若し不潔と意はゞ其人に於ては即ち潔からざる也、爾もし食物の爲めに兄弟を憂へしめず其行ふところ愛の道に合はず爾食物によりてキリストの死て代り給へる彼を滅すこと勿れ、爾曹の善を以て人に謗らるゝことを爲すなかれ』と、夫れ神の前に於ての善惡は、道德上の問題なり、而して之を人に施すは智識上の問題なりとす、瞑目一念、深く自ら足らざるを思ふ、主の戒の聲、淸けく聞『我爾曹を遣はす羊を狼の中に入るが如し故に蛇の如く智く鴿の如く馴良かれ』

○德　　合川信水

蜀帝劉備、死に臨んで太子に遺詔して曰く『勿以惡小而爲之。勿以善小而不爲。惟賢惟德。可以服人。卿父德薄不足效

也。卿與丞相從事。事之如父。勿怠勿忘。』と我等は彼が一生の言行と、末期の遺詔とを對照して、千載の下、猶其風其德、活然躍然として人に迫るものあるを覺ゆ、蓋し德は無形なり、然れども形に現はるれば則ち美となる、風采に出でては美なる風采となり、言行に出でゝは美なる言行となり、文章に發しては美なる文章となり、事業に發しては美なる事業となる、然らば我等先づ内に向て德を養ふことを要す、何を以て之を養ふべき乎、我は劉備の一語を轉じていはんとす、多くの人物は德至らずして、以て萬世の大師表となるに足らざるなり、宜しく主に從ひ、之に事ふること父の如く母の如くせよ、怠ること勿れ、忘るゝこと勿れと、抑も愛は自他を一にす、我れ眞に主を愛さば則ち主と一たるなり、既に一たらば、我心は則ち主の心なり、此心を以て人物を觀、萬有を觀る、凡て我は可ならざるなし、凡て我に從せざるはなし、而して我の德日に進まん、パウロ曰く『愛は德を建るものなり』と、又曰く『愛は衆德の帶なり』と、我等若し德を養はんと欲せば、必ず神と人とを愛せざるべからず。

批評

○新島先生追懷附錄

同志社文學雜誌第五十號に、新島先生追懷の爲の附錄を載す、中に付き、先生が、ハーデー君の紀念演説の筆記を收む、ハーデー君が成功の元因十一を擧げたる中に、君は非常の勵を爲さん爲に非常に休息を爲し又美術を愛し己の鋭を養ひしことゝ、一歲余の男兒と財產一百万弗を或る死にゆく知人より托せられ、好く保管して之を六七百万弗に仕上げたりとの事を記す。

○史海の孝謙天皇

議會の爲に續稿を久しく見ざりし「史海」の第八號出で、孝謙天皇の論あり、曲巧の辨解例もまでには至らずといへども、細微鋭尖の評眼よく徹し、讀者を驚かすの節二つ三つあり。仲麿に關はる誤傳に付きては辨じ得て頗ぶる力あり、道鏡を天智の孫として些さか解く所ろあるは稍や可なり、慶すべき事とも云ふべし。

小公子の評

原作は有名なりと云へる程に其の意匠が高尙にして且つ優美なるは更にも云はず實に家庭小說中の大皇帝とも崇拜すべきものなり女史が殊に選みて譯述したる識力已に凡ならざるを覺ゆ且つ女史の自序は其の壁頭に

母と共に野外に逍遙する幼子が幹の屈曲が尋常ならぬ一本の立木に指して「かあさん、あの木は小さい時、誰かに踏まれたのです子云々

一囚以て女子が敎育上に心を用ふるの深きを見る故に吾儕は之を小說視せずして寧ろ美術的に組織せられたる一種絕妙の家庭敎科目と評せんのみ且つ吾儕世上に流布する宗敎的文字を讀むに其枯淡にして味なきに倦まずんばあらず吾儕曾て女史の基督敎信徒たるを知るにより此の小公子なる美裝の冊子も亦或は其類にあらざるやと預想せしに何ぞ圖らん一たび卷を繙くや復た餘念なく遂に燭を以て晷に繼ぎて之を讀了せり而して世の小說家の言文一致躰所謂言葉がきの調子を用ひて少しも其當を誤らず憐むべき婉順にして操守ある若未亡人を寫し且つ力を極めて慧敏にして嬌痴なる小公子を寫せしが如き巧は則ち巧と雖も是れ尙ほ女性の紅毫に上り易かるべきも獨り彼の傲慢猜忌なる老公爵の口吻と精細にして沈實なる代言人の意態を寫し得て一々眞に迫れるは殆んど吾儕をして茫然自失せしむるの技倆と云ふべし殊に其の老公爵の語々人を人と思はぬ荊棘劍戟の中央へ彼の眇乎たる小公子が赤手にして闖入し難なく情感の白旗を堅てしむるの一段は積消兩極相反映して所謂錦の如く火の如きの奇壯觀を現出す而して末尾に至り小公子の若未亡人と相抱くの狀人をして覺えず泣然たらしむ是れ原作の意匠自から然るを期せずして然らしむるとは云へ亦女史が神聖なる一片の血熱の墨汁と化したるもの亦與りて人を動かすにあらざるなきを得んや（一月廿一日、國會）

時事

○白雲漠々に向つて大質問す

九月十四日の內閣の決議果して洩れたる乎、もし洩れずとせば、今井商店は何如なる通天鏡を有せりや、日本銀行總裁川田小一郎氏は、果して如何ほどの先見ある人ありや、今井商店の手を經て山陽關西及び其他の鐵道株凡そ百万圓に至る迄買入れたる大手は何所よりぬつと出しや。而して此株券を日本銀行及第十五銀行に抵當したる人は何人なりや。凡そ此等の問題は、經濟記者と共に深く穿鑿せざる可らず、質問の其聲をして四方反響あるに至る迄で高めざる可らず。所云る實業相談會の人々は、少しく此類の研究に熱心せられては何如ん。

○官吏養成

大學總長としての答は、官吏養成にあらずと云ふは勿論なり。たゞ、養成に似たるらしき形跡を全止せよと云ふことを主眼とす。高等官受撿には、世間並に同樣の手續を履むことと改められては何如ん。此は、大學の名譽の爲に所望する也。

○板垣伯演說中止

政府の處置も妙ならざる哉、數百人に數十分間の演說を聞かしむるを惜しみて、滿天下を激せしむ。巧と云ふ可らず。今や同胞は忘るゝとなし、條例は、自由伯の口を緘したりと。

○文章今昔

來すと云ふなら夫でよし、來さぬと云ふなら己が行く、龜が腕には骨がある。造辭粗野なりと云へども、以て眞率慷慨の氣を見るべし。近頃ろ、廣嶋縣下神石郡古川村の村會議員藤田常助氏が、同議長に差出したる辭職願の文は左の如し、

辭職願

一私義古川村々會議員に任ぜられ從勤仕居候間奉職致度候所終に病氣に罹り甚だ困難罷在候段陳ば嫌で厭で辭し升じや無い不得己日增に病氣差重り如何となれば熟諳熟考、歩行する不能然れば議長會議必要あるとき議員召集相成候ても出會する不能乃ち公務に堪ざる義と思考する而已ならず充分醫師の治療を受け全治致度依て事情御洞察の上、何卒退職を致させ被下度此段 奉 祈 上 候也

何ものぞ只だ之を一笑に附する?、短片の章よく以て今昔の文を標示するに足る。今日多々見る大家の粉文章は遂に孰れの類に入らんとする乎。

○破戒僧

昔し左僕射長王の宴に、竹溪の道慈を招く、慈往かず、詩を送りて吟ず、緇素杳然として別る、金漆諒とに同じ難し、僧既に方外の士、何ぞ煩わして宴室に入らんと。而して、今の僧は自から戒を破ると稱して、俗世界の議員たらんとす。世上果して之を招くものありや。

○文章家と歷史家

櫻痴居士、能辨學會に於て其慧辨を揮つて云く、近頃ろ大分文學が進步しましたが、余が眼中には未だ一人の文章家と歷史家とを見ません、と。居士も亦た老ひたる哉。

○女學校衰微

府下三四の新聞に同格の文を戴す、此は或る一ヶ所より出し種なり。本年に至りて女學校の衰微を說くものは、極めて事情を知らざるの徒あり。但だ其中に或女學校新校舍を賣却して移轉せんとすとの風評を證としたる一事は、女學の爲に辨じ置くべし。明治女學校は、敎育上市內の地位に安んぜず、高輪に大ひなる校舍を寄せんと云ふ人あるにより、本科生を

之に移して、家族主義の敎育を一層盛んにし今の校舍には預科生、小學生を專ぱら敎養せんとの議ありしが、暫らく中止し數年后迄で延ばすことなりぬ。之を誤報して樣々に言ひ傳ふるものありと聞しが、辨ずる迄もなしとて棄措きぬ。然るに今ま之を種として、一汎女學の衰微を吹聽し、陽春一來梅花將に開かんとするを摘まんとするものあるに至ては、女學の爲に陳じ些さか事由を辨ぜざるを得ず（明治女學校員投）。

○葬儀に花を贈るの弊

島地雨田子、「亞細亞」に於て論ずらく、贈花の禮は近來の新弊とは夢にも思はず、舊幕時代よりの通式と心得、互ひに花筒の美を競ひ其價に於ける少にして三四五圓より始り、其大なるに至りては十圓廿圓の巨額に上る者ありと。一理あり。然れども、山間の寺舍亦た風流にあらずや、人情の事は單に錢の勘定のみを以て論ずべからず。イルビン氏が田舍葬花の篇は、何んぞ優にして雅なる、黑衣被へる棺上の白十字架は以て寡婦孤兒に無限の慰めを寄せんとす。諸君未だ如此き方途に儉約術を勸告す可らず、今の佛葬式には他に尙多くの冗費を要するものあるにあらずや。

○選擧に於る婦人の周旋

中島、島田、鳩山、角田、等の諸夫人が、選擧の事に關し周旋奔走したりとの報話、新聞紙上に散見す。都新聞記者之に慨し、以て女德を害すとなす。安んぞ然らん。是れ女權進捗の一階段を昇りたるものなり。唯だ、婦女子が政界に入るや、純淸高潔の士を推さゝる可らず、政界に於ける婦女子が功用は、其道德を維持するにあり、政策の何如に至つては、暫らく度外に置くを可とす。

○浮浪人

區々たる弱少年を制せんとて、堂々憲法に害觸して、大業の法案を立ることなかれ、巡査十人、憲兵數人を用ひば、一地方大抵の今の浮浪者は跡なく消ゆべし。暫らくして復泡立ば、亦た一吹すべし、些々たる細事に國辱を海外に暴らさゝるを妙とす。

○井上伯

井上伯に注目するもの增加せり、然れども伯の出るは、今ま一時變ありての后なるべし、吾人は其事あるを面白しとせず、然れども、他日政黨內閣の運びに至るには是非とも其の一幕を演することなるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

可愛子編

◉皇太后宮陛下の御誕辰祝　去廿三日は皇太后陛下五十九回の御誕辰日に相當するを以て、青山御所に於て御祝宴御催し相成りたり、右に付皇后宮陛下には御祝さして、當日午後二時宮城御出門青山御所へ行啓在らせられたり、御陪乘は高倉典侍にして、供奉は香川太夫の宮亮、其他侍醫女官等にてありし。

◉皇族薨去　北白川能久親王殿下の第四王女信子女王殿下は、此頃來少しく御違例に在せしが、御附の醫師は療養に手を盡し怠りなかりしが、藥石効なく遂に去廿二日薨去あらせられたり、御遺骸は廿四日午後一時を以て麹町區紀尾井町御邸御出棺豐島岡へ御埋葬せられし由、聞く同女王殿下は昨秋御誕生あらせられし御方にて、御齢僅かに一年未滿なりしさ、御悼ましき限りにこそ。

●華族女學校の習字　道風、貫之の流れを酌み、假名書く道の幽玄を鍛せりさいふ法古齋さいへる人を擧げて、同校生徒の習字を教へしめしに、三月にして續揚ありたりさ、日本新聞に見ゆ。

●大日本婦人教育會慈善音學會收入金　切符賣上げ代價總額金八百二十二圓、諸入費支拂額百五十三圓三十六錢三厘、差引純益金六百七十七圓六十三錢七厘、右の收入金を以て、貧民女子職業學校の創立に取掛り、着々歩を進めて、已に近日開校の運びに至れり。

●又同會事務所　は麹町區平川町四丁目十三番地に轉宅せり。

●女子師範科の得失を討論す　茨城縣師範學校に女子部設置の得失に付き存非總裁の問に答ふる爲め、同縣教育會にては盛に可否の討論をなせしさいふ。

●埼玉縣酌婦稅廢止　埼玉縣下の料理店には、俗に達摩さ稱する酌婦ありて風俗を害すると少なからざるにより、同縣會にては從に右の酌婦に月稅一人に付五十錢を課するの議を可決したるが、過般の同縣會にて右の課稅は却て風俗取締上に差支あるのみならず、千葉縣を除くの外は隣府縣に此の如き稅則を設くるところなく、實際稍苛酷に失するの嫌ひあるに付、寧ろ廢止すべしさの議案理事者より提出になり、異議なく通過したるを以て、愈々來る四月より右の決議を實行するさいふ。

●靜岡婦人會　は會員凡一百名（現在員はメソヂスト教會員のみ也）每月二回開會每回集る者七十餘名、會長小林さよ子先づ聖書の講義をなし、次に會員の勸話あり、終に婦人會雜話をなして散會するを例さす、會員中より每月少許の積金をなし、教會等にて何なり些少の金を要する塲合には此會常に第一に義捐すさいふ。

●女子教育懇話會　嘗て明治女學校に學びし同市の小杉管子が發起にて建てたる同會は。會員二十餘名、會長には小杉管子撰擧せられ、大會は每年四月に開き、常會は每月一回土曜日午後一時より開く、會則の一二を擧ければ、本會員は須く一致懇和して女子に必要なる教育、及び家政上の談話をなし、互に智識の交換を圖るの目的さす、本會は右の外猶女子に有用の技藝香茶生花編物細工類書畫和歌を加へて來會者の隨意になさしめ各技中長ずる所の者は他意なく示すの勞を辭するとなきを要す、本會は慈善を旨さし開會每に本會員の手に成りたる編物細工其他種々の物品を寄附せしめ大會の節陳列して之を賣却し該賣上代金は一切萬般の救助役に當つる者さす等也。

●靜岡製絲會社　同會社長は前縣會議長たりし樽林宇太郎氏、女工は凡九十名にして年齡滿十三年以上二十年以後さ見ゆ、多くは三州豐橋及び其近邊より來る工女は何れも社内に寄宿す、業務時間は午前六時より午後六時まで、休日は一日さ十五日なりさいふ、一昨廿三年六月十八日結社の事成り、社長樽林氏は開業以來一日の欠勤無く、工女を奬勵し、社務を整頓し、且工女の爲めに慈善事業さ教育事業を擧行し懇切至らざる所なし、故に工場に臨み工女を見るも、他處の女職工の如く大聲放歌などするが如きとはなく、尤も靜肅に課業に勤勉す、其尤もよく勤むる者には勤勉狀、賞品等を與ふ、工女の賃金は一等より七等に分ち、製絲十匁につき七等最下低五厘より、一等三錢までの差あり、何れも最初は下手にて、熟練するに隨ひ其等を上ず其都度卒業證を交付するさいふ。

●子守教育　愛知縣碧海郡尋常小學小垣江學校同分校吉濱學校に於ての子守教育は、小兒の養成法、子守風儀の改良、教育の普及の三目的を以て教授せられ、益頁好の望を有せり、岩村同縣知事は、大に之を嘉し、該件に付き將に訓令を發し、縣下各郡の之に倣ひて設立せんとを勸誘せりさいふ。

●藝妓の歎願聞屆けられず　大阪市街接近郡分に住せる藝妓總眛より、二箇年間免許區域外に住居するとを府廳に歎願せしが聞屆けられざりしさいふ。

●開校式　岩手女學校は昨年十月開校以來都合に依り、未だ公然開校の式典を擧行せざりしが、稍く準備茲に整ひ、去る二十三日午後第一時より、縣官郡市吏各教員常置委員市會議員組總代其他民間の有力者等を招待して、盛んに其式を執行せられし由。

●婦人の職業　岡山縣岡山市野田屋町霜山かつ子、横山やそ子等の發起にて舊刑部屋敷の内崇山學舍を借り受け、海外へ輸出する羽二重絹ハンカチーフの繍入工塲さなし、去る廿六日より開業せし由。

●孝女佐藤つる子　岡山縣備中國後月郡出部村大字上出部村に住める佐藤つる子さいへる女子は、天性至孝にして、幼少の時早く父を喪ひ、獨り母に事へて孝養惰らず、家素より貧困なれば、夙に起きて耕耘に從事し、夕には紡績を勤めて、時々滋味を求めて母に供し、承歡怠らず、或は年頃にもあれば、入婿の相談を仕掛くる者あるも、一向聞き入れず、母死去の後は、姉に事ふるを恰も母に事ふるが如くし、風雨寒暑未だ嘗て一日も其家業を怠りたるとなければ、家道大に振ふる至れり、四十年の歳月終始一日の如く、近隣の人々皆其至孝に感じ之を賞賛せざる者なし、此事政府に聞へければ、昨年十二月廿二日賞勳局より綠綬褒章を下賜せられたりさ云。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●産婆習熟證書授與　福井縣南條郡今莊村産婆講習所に於ては本月七日、同郡武生町同所に於ては同十三日、試驗を行ひ、及第者（今莊村の分五人、武生町の分六人）へ産婆習熟證書を授與せり。

●長岡婦人會　越後長岡なる同會は、來る二月第一の水曜日に年初會を開く由。

●救世婦人會の景況　去る十八日午後二時越後長岡觀光院町救世會に開きたる佛教主義の救世婦人會は、風雪の劇しきにも係はらず參會者頗る多く、略ぼ六十餘名に及びたり。

●長崎婦人會　は去る十七日（日曜）午後一時より、酒屋町本蓮寺派出所に於て開き、醫學士粟本東明氏を請ふて衛生上有益なる講談ありたる由。

●秋田婦人學會新年開會式　去る十日同會開會式並に常集會を同市明德小學校に於て行はる、其順序の大略は賓客及會員の着席終て唱歌（君が代）を奏し、昨年中無欠席の通常會員に賞を與へ、傍らは新年の祝詞並に昨年中通常會員の出席度數の比較數等を報告し、次て賓客尋常師範學校長庭地保氏、同教頭鈴木錢次郎氏等の演説あり、其れより唱歌（新年）を奏し、式を終ひ別席にて茶菓を饗應せり同日出席會員は無慮八十餘名なりしと云ふ、因に云ふ同會にては本年より一層の擴張を計り、十五年以上のもの（可成晩年篤志の首を望む）を募集する由。

●秋田縣會に於ける醜論　昨年十二月一日の秋田縣會に於て十八番議員大日向某、富國強兵の策なりとて、娼妓の賦金を廢し、揚代金を廉にし、登樓者を多からしめて、而して密賣淫を買ふ者を少なくすべしと建議す、其言醜汚奇怪、名狀すべからず、嗚呼議員として議會に此言をなす、吾人何ぞ驚かざるを得んや。

●北海禁酒會總會　は去る十五日開き集會員四百名ありて、頗る盛なりしといふ。

●遊廓内より雜業者を撤去するの議　北海道薄野遊廓内六十七戸の貸座敷營業者を入るのに足るべき地積あるに拘はらず、僅か二十余の貸座敷を容るゝに止まるは、畢竟遊廓地と云ふ名義のみにて荒物屋小間物屋其他種々樣々の雜業者あるのみならず、寺院あり、劇場あり、遊廓内を充たせしに依ることなり、就ては今廓内には貸座敷並に全業に直接關係ある見番引手茶屋藝屋等を除くの外、一切の雜業者を撤去し、彼の狸小路等の白首屋を殘らず此に移轉せしめば、甚利益なるのみならず、右等雜業者を混ずるは遊廓を設けし本旨にも背むけば、之を撤去せんとの内議其筋に起りしやに傳ふるものありと。（北海道每日新聞）

●熊本縣通信

◎海老名夫人の來熊　熊本女學校設立の際大に力を盡されたる海老名夫人は、其の夫彈正君と共に去月來熊ありて、同校の校長就任式に臨まれ、なほ四五日滯留の後、夫妻相携へて日向に赴き、高知を經て歸京さるゝ由。

◎熊本女學校々長就任式　今度新たに歸朝せられたる藏原惟郭君を聘して、熊本英學校及び熊本女學校々長の任を托したるに由り、去る十二日午前（英學校は別に十一日に執行）同校に於て校長就任式を擧げたり、來賓は縣下幷に福岡縣下の父兄及び有志、婦人、縣廳よりは第二部長、師範校よりは校長、其他同校の校友等にして來會者殆んど百人同校未曾有の盛會なりき、順良にして義氣に富める生徒眞摯にして愛情に滿てる教員校長幹事忠實にして熱心なる社員諸氏の心を盡したる式場に臨みし來賓はみな滿足の意を表して歸りし由。

◎高等女子師範校の入學試驗　入學志願者は八名にして、目下縣廳に於て試驗中なり。

◎尙絅女學校　熊本に於ける四私立學校の合併出來、舊濟々黌は其の普通學部となりたる故に由り、附屬女學校を尙絅女學校と改稱し、なほ保守主義教育を施し、目下生徒の數七八十名なり。

●三重縣津市通信

◎女學　女學校には三重私立女學校ありて、本科別科豫科合せて生徒七八十名あり、成瀨校長始め中矢四郎氏熱心に教授せらる、追々盛大の摸樣ありて生徒は刺繡に最も得意にて、嘗て内國勸業博覽會に出品して賞狀を得、大に名聲を博せり、目下同校より女子高等師範學校に遊學する女學生三名あり、就中嶋川卷子の如きは學力優等常に首席を占めつゝありと。又養正學舍は、養正高等小學校校長川宮氏を始め舊津藩士及津市豪商の設立になりて、高等小學校二年生以上の學力あるものに、專ら裁縫を教授する所にて、生徒目下五十餘名あり、既に二回の卒業式あり、生徒は多くは士族の令孃にあらずんば商人の娘なり。

◎幼稚園　村岡幼稚園亡びて、三重私立女學校内に三重私立幼稚園興れり。

◎廢娼論　吾地に於ては未だ廢娼論あらず、時々生意氣なる自稱女壯士が遊説に來るのみ、嗚呼津市に基督教徒其人なきか、否な無きにあらざるなり、而して廢娼の「は」の字も出でざるは何の故ぞや、嗚呼津市の信徒睡れるか、醉へるか。

◎惡所　惡所は二ヶ所あり曰く藤枝、曰く贄崎、共に市街外にあり。

●朝鮮の結婚　同國にて結婚せんとするには、婿の方より嫁の方へ入用なる諸道具一切を送らざるべからず、故に如何程貧困なるものと雖も、十圓以下の金にて結婚する能はず、偖愈よ結婚の約整ひたる時は、婿と其父とは馬に乘り、嫁に送るべき諸道具をも馬に駄し、嫁の家に行くなり、而して父は一泊して歸家し、婿は二泊して三日目に嫁を連れ歸家するなり、結婚の早きは十歲位にして、十七歲位の嫁を貰ふ、而して婿十七歲に達する時は嫁既に年更るを以又新妻を迎ふ、此の如くにして妻を重ぬる數人皆之を妾と稱す、其妻の多きほどを名譽とするなり、未結婚の男をチョンガー（子供の意）と稱し、其頭髮を束ねて背に垂る、結婚すれば其髮を束ねて恰も琉球人の頭の如くす、以て未婚者と區別し、未婚者は結婚者と齒する能はず、故に金さへ出來れば直に結婚するの風習ありと。

●外國皇族結婚　澳匈國トスカナ太公親王フェルジナンド第二世王女ルイゼ、アントアネット、マリア殿下（明治廿一年我國に來航ありたるレオポルド、フェルジナンド親王の公妹）と撒遜太公親王フリードリヒ、アウグスト殿下（撒遜皇帝陛下の皇弟フリードリヒ、アウグスト第一王子にして撒遜今帝皇子なきを以て將來の皇位を繼承せらるべき御方なり）と婚約相整ひ、去年十一月二十一日當國帝室神壇に於て結婚式を行はせられたり。

●英國百壽の長伸縮　昨年十一月に於る英國租税官の報告は實に思慮深き米國人

特に全國の禁酒會をして憂ひ惜く能はざらしむるものあり。曰く昨年來煙草稅收入は大凡百万弗の減額なるも之に反し釀酒よりの稅額は八千三百万弗の多額にして唯一千八百九十年よりは夥しき增額なり。猶同年中不正の件により六百九十八の釀酒場は廢滅され三百七十八人の同業者は捕縛されしかど、四千〇四十九の釀酒場今猶盛なり。年中の釀造者は一億一千五百万ガルロン(一ガルロンは三升余)にして千八百九十年より多きと七百万ガルロンなり。七月三十日調査にて、酒藏に貯積ありしもののみ一億一千三百ガルロンの多量なる曾て聞かざる處なり、猶當今おろし問屋の升にて千四百万ガルロン小賣商にて五千二百万ガルロンを爲さり、今人口に對して他國に比するに甚多量なる大英國の外他に見ざる處なり之を米國の入口老幼婦女を通して割分に一人二ガルロンの比例なりと云ふ。

●晉國北極にキングスドーターの鬪　王女軍の記章として白銀十字及軍中或は流行病等社會一般の病苦に人民を慰め救わんと期したる赤十字の章を身に帶べるケートマーステン孃は主の名に依りて常ならざる遠旅を企てられぬ。そは兼て看護に經驗熟練なる孃は當今頻りに印度に行きて人々の忌み怖るゝ彼の癩病者の中に入り。之が看護に從事せんとて熱心なるを以て先ヅ準備の爲め兼てシベリアにて此病を治する妙藥ありと聞き及びつるがまゝ自から行きて之を實驗せんとての企望より起りし事なり。孃又メリー、ビー、ウイラード夫人より助力を與へられ、特に露國皇帝より特許あるを以て、自由に同地方の監獄其他犯人拘留所病院或は逃亡無賴者の製造所たる諸鑛山、砂漠の勞役者等に出入するを得十分の望を述ぶる好機を得られぬ、ウイラード夫人は此の處の爲につきシベリア內地に入込む途すがら記せる如き諸所に行くに虛無微黨多くさなきだに貧民の群集なれば至たる處に茶珈琲砂糖或は種々の慰物又必らず聖書を與ふるを以て初め孃が十分に供へられし旅費も目的の地に達せざるに早や盡きんとするの樣なり、さりとて孃に接し大ひに神の道に傾聽するの意を發せし虛無黨の婦女等に一の聖書なきを知りつつ見捨てるに忍びず俗は孃の爲に資金募集に盡力さるの必要となれりしなり、曾て此植物のある地方に四十年許の間傳道せられし希臘の僧ビショップダイチ子シアスが同孃に語れるに其地方はヤコーツクのいと髮々しき種族の住する地方にて容易に入込み難く既に以前二度人の此地に入らんを試みて果さゞりしとあり、されど植物の効あると論を俟たずと證言せるに愈々決心せられしとぞ。故に此度を以て第三番目の探索者ありとす、孃が途中寄送されし書中レナ河を航する船の樣を記されぬ。そは一の貨船にして乘客は荷物の上に床を設け食物は麵包の一種の漸やく餓を凌ぐ位のみ此くして大凡一ヶ月許流勢に任せて流れ行くなりと夫より數百里ヤコック迄馬上に一鉢を爲し進むは即ち孃と之に從ふ醫師が大發見に勇進の光景なり而してヤコウツクにてはビショップダイチ子シアス氏の盡力によりて大に便利ならんと。キングスドーターの姉妹等主の名の爲に此くも冒險を事ともせず大望を期し盛さるゝ姉妹を持つその如何に感喜すべき事かな。

●經濟女傳士ヴイクトリンシーンス孃　當今英國女學者中に其名錚々たるはマンチエスター州に名も知られざる貧父母の娘ヴイクトリンシーンス孃なり、曾て英國諸大學に懸賞問題の出し時婦人中拔群の答案を出せしも同孃なり。孃は一千八百八十九年ヴイクトリア大學にてバチエロルチフアートとなり爾來經濟學研究に熱心せられたり。頃日コブデン、クラブよりチクスフオルド、ケムブリッヂヴイクトリアの諸大學に呈出せる懸賞問題に初めの二大學は女子が之に關するを斥けしも後者は女子にも等しく之に答せしめぬ。其題は「工場條例の實際職業及商業上に於ける結果」と云にてありき、孃が此居住はマンチエスター州なるが上其志ざす學の爲め常に尤も關係多き工場に付深く考へ或は工女クラブなどを建設せし爲め今此問題の出づるや考案を書籍又年表等に賴むなく全く自からの實見より滔々論じ來りて餘すなきは多く男女學者の競爭の及ぶなく容易に勝を制せりと云ふ、イルシコイト孃と好一對とも云べし。

●米國中尤とも働らく婦人　今日北米合衆國中婦人の尤も務むるはカンサス州の婦人を最上とするなるべしカンサス婦人が働きに就ては工場內諸商店銀行、麵包・燒粉磨等其種百を以て數ふべしされど今彼のエヴィング、ハーバート氏がハイアワサウオイルドに記せる處を見るに其處には婦人の牧師、醫者、都市の知事、評議員中央政府に對する大訴師或は多くの寡婦が亡夫の巨產を受け好結果を擧げ或は田地を監督し又敎會內尤活潑なる事業を司ごる等をさく〳〵男子も及ばぬ程の能力を示せり、然りとて決して其家政を忽かせにすと云にあらで內濟純潔にして屬望すべき家族を爲し大凡基督崇奉者の家族として人のゆるす處の手本を形造れりと實に勇壯なるカンサス婦人は合衆國婦人の鑑みべきものなり。

●北米印度の女公主　モントガメリーのラープロック近傍にビウテと稱する一種族あり族長の女サラウインヌミユカは印度婦人の中名高き人なりと未だ幼年の頃ゼ子ラルフレモンド氏の水師たりし祖父に伴はれサンジョセに出で來りシスターズ傳道學校に敎育せられ其後歸國して通辨の役を取り在りき。ゼ子ラルクルーク氏が合衆國陸軍總督たりし頃ビウテに於ける數度の戰爭并に平和の時代何時も平和は議を取られぬ、千八百七十八年バンノック襲擊の頃はゼ子ラルハワード氏に隨行し後東方ニユーイングランドに來り演舌せられたりと。曾てビウテの生活てふ書を著はし又同族中の印度人を數へぬ、二十年前合衆國副艦將ハートレット氏に嫁せり、實に女史はビウテ印度人中永く記臆せらるべき人にこそ。

●マダム、ブラバスキー女史の繼紹者　は彼の小說家ウヰルターベザント氏の兄弟なる人の妻にして當今離婚なせるベザント夫人とは定まりぬ。其が先夫は英國々敎會の法敎師にして良家にてありき而して一男一女を擧げぬ。されど夫人が諸般の研究又ドクトルブビー及ジーンスタンレーとの交際は日一日と親しき慈母及先の良人と宗敎上の思想を異にし遂には不信神者を自から名乘りて或は文字に或は言語に寄せ之を公けにするに至りぬ。故にブラバスキー女史の死するや同派の人々は一意に演舌家としても記者としても又は接神術の熱心なる中保者としても夫人は即惠與されたる人と信じ之を向へ新聞紙に又は至る處の集會に夫人を同派の女王と崇め凡ての計畫等皆夫人に出つる程の有樣なりと云ふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

震地傳道隊　第十三報

豐木村チブス流行后の地に演說會を開く。
笠松に講義所を設くるの運びとなりぬ。
高須今尾、及び笠松に常住傳道者を置くの途を開く。
名古屋近邊に於て運動せんとす。

一月十五日　世は十五日正月と歌ひさゞめく日なれども靈の戰ひに在る身は特別の休みとてあらぬものから二日間の北方町に於ける主の惠みを感謝して小野松田兩君は共に

大野郡豐木村

の傷寒扶斯避病院に向へり此處は向日に笠松病院にて一度勝利を獲たる我黨の三澤默二郎君の從事する所也我隊は一は之を訪問し一は我隊の運動をなさんがため也又前より早く高須の信徒水谷金子兩氏看護の勞を取りしといふ

即夜演說會

を有志家後藤健二郞氏の宅に開く氏は土地の名望家にして今回も窒扶斯の預防に從事すといふ然して求道中の一人なれば我隊も直に其家を借り得ることゝなりし也尙ほ

一人の信徒あり

鈴木利正氏といふ氏は曩日に岐阜縣巡査を奉職中受洗し後辭職歸農せるに際し自分の家族よりも彼是苦情起りて困難ありしが遂に今日は勝利を得るに至らんとせり故に我隊今回の訪問には實に非常なる喜ひなりしといふ

又昨夜四人の求道者

十町許りの村より尋ね來りて教義を聽きたりとは三澤君の談話なり、此夜演說會に集りたるものは怱々の間のことなれども三十餘名靜聽し閉會後五名殘りて猶ほ教義を叩き聖書を求めたり是地も亦勝利也とは三澤君の笑て語り出でたる所也

感謝と共に分れを惜みて

翌十六日小野君は笠松に來る翌十七日松田君岐阜より着す

津田仙翁亦

名古屋より來着せらる先是既に笠松には三澤君等の盡力にて禁酒會を組織し會員既に廿五名を得たり故に十七日をトし

笠松禁酒會發會式

を小學校講堂に執行す會するもの廿餘名席上數番の演說あり我隊員松田小野兩君も亦其中にあり終に　陛下の萬々歲と本會の萬歲を大唱し了り茶菓の饗應ありたり

禁酒演說

是夜亦本會の催しにて同しく小學校にて禁酒演說會を開く辯士津田翁及松田小野兩君也會するもの百二三十餘名大拍手喝采の間閉會したり（翌日津田翁は岐阜に向て出發）

雪を踏破して岐阜に至る

十九日は終日雪風寒く伊吹より北方木曾の御嶽に至る迄高低の差別なく諸山皆牙を中空に磨し來り凄々たること名狀すべからずかくて廿日に至り積つること六寸然れども止むべきにあらざれば小野松田兩君は草鞋を穿ち岐阜に至る此行蓋し日支乏しければ岐阜の如き宣教師及教師在住の地には公開演說を止め將來の傳道上方策を論し大運動あるべきことを勸告するの便法に及ぶすと定めたれば也然れども要求せられたるまゝに演說會を即夜

聖公會講義所

に開會すチャッペル氏の急報により會するもの三十餘名也きかくて同氏は我隊の運動に大贊成を表し且つ大に喜ばれたりといふ而して今尾高須には愈村田里氏を永住傳道者と定めたりといへり

笠松演說會

廿一日夜小學校にて第一回を開く會者百二三十名翌廿二日復た第二回を開く是夜亦百餘名を得たり閉會後十名許り殘りて聖書を要求したり先是禁酒會の時に小學校を借ることは餘り容易ならざりし傾向ありしをもて如何也と案し居たりけり求道者中周旋する人あり其幹事に至り之を請ひしに此人は佛教主義なりければ直に同意せず先つ乙なる其幹事に相談せよと云へり乙幹事は請ひをきゝて「左樣サ物を貸ふ時病院を建てゝ下さつた時には默して受けながら其の學校を貸して吳と云ふ時にイヤダといふことは人間なら出來まい。事遂に決するを得たり然れども

笠松求道者は奮發

して曰くソウ何時も何時も學校のみを借ることも出來まいと五六人の者は講義所の新築を必要とせり廿二日の演說會にはチャッペル氏夜を犯して岐阜より來り大勢の集會に大滿足をなし前には家をもかさず一人の聽者もなかりし此町が斯く變遷したりとて大に喜び講義所の助力及三四回の每月出張を約して歸去せられたりといふ要するに是地亦一人の永住傳道者の必要あるもの也願くは此種子天の祝福を傾けて百倍の好果を結ぶべき沃土に成長せよ

隊員の分遣

廿三日小野松田兩君は笠松を發し竹が鼻に至る松田君は孤女教育の件あり直ちに高須大垣に向ふ兩三日にして名古屋に來會する都合也小野君は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

竹が鼻

にて公會を開くため各種の奔走をなしたれども遂に集會所を得ざりし故僅かに數人の者にても道を談せんと欲せしが偶々病院にて患者に談し吳よと依賴せられたり是地は笠松と異り教勢未た進歩せされは小野君は之を辭したりき然れども強ての依賴なりけれは踅て廿餘名の患者に向て說教したり是時町の有志者及巡査部長合せて五名許り來り聽きたり後尚ほ此人たちに別に談論をなしたりといふ、かくて小野君は廿四日名古屋に來る

三澤默二郎君

も昨廿三日豐木村を辭し東歸の途次笠松より小野君と共に名古屋に來り該夜八時十分東發の列車に搭せらる

追報

先是余は强硬主義を以て病魔と挑み合ひしか十五日に至り感冒愈加はり頭痛く咽喉苦しく剩さへレウマチも兵を卒ゐて攻め寄せしかは手足痛みをまし迚も是にては勝利覺束なしと旗をまき豐木村にも同行せす直に岐阜を掠めて笠松病院に至る然して我黨の菊地君大塚女史の助けを得んため也き幸に直に處方を領し逐日漸く輕快の途に進みたりかくて廿日に至り笠松病院も全く引き揚けとなり軍醫も名古屋の師團に歸陣せられたり余も亦菊地君等と共に名古屋に移り空く旅窓の下に枕して隊員が來るを待てり指を僂ふれは今日に至り既に十日此間の如何に長く感したることぞ多忙窮の閑居程苦しきものそなき殊に昨廿三日の如き恩師新島先生を追懷し來れは我邦家の危急實に洪嘆に堪えす轉た衾裏に輾轉反側して泫然涙巾を濕ほすのみ嗚呼今や志ある男兒慨然自ら任して起つの時にあらすや心ある義婦決然節に死するの機にあらすや嗟吁神洲の正氣振はさる既に久矣感し來り中宵蹶然病枕を蹴て起ち孤劍を彈し寒月を睨する果して幾度ぞ

余はザルチルサン曹達の爲めに大に輕快となれり然とも爲に消化機を害したり名古屋の運動も既に數日の間に迫り來れり主よ願くは成功と勝利との途に我隊を導き玉へアーメン

一月廿四日

金城客舍の病床に於て　湯谷磋一郎　識

會計報告傳道地より未だ着せず、要するに殘餘は只十圓のみ。素より與へらるゝの外か賴まず、たゞ靈によれる同情の人あらば、幸に義捐寄贈せよ。

品名	一月廿八日
白米（一円に付）一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一一〇
五等米	一一五
正米（一円に付）越中米	一斗四升六合
尾張米	一三七
磐城米	一四〇
南部米	一五一
一志米	一三八
雜穀（一円に付）本貫大麥	二斗八升〇合
上州小麥	一八〇
竹林麥	一八五
備澤大豆	二一三
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六五
白胡麻	一二五
黒胡麻	一五八
鹽（一円に付）赤穗	三、四五
大鹽	三、五五
本齋	五、五〇
新齋	六、一〇
醬油（一円に付）最上	七分四厘　七九
極上	八七　一、一〇
上物	一、二七　一、五七
中物	一、七二　一、九〇
並物	二、二〇　二、六〇
味噌（一円に付）地製上白	六貫、八〇〇
同　上赤	六、八〇〇
同　紅赤	四、三〇〇

品名	一月廿八日
絹糸（一円に付）本綛花紺色	二七〇匁
同　色物	二五〇
羽二重糸色物	二四〇
同　黒	二八〇
色物別上	二四〇
延糸太筋	三三〇
丼子糸色物	三〇〇
同　瀬色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
毛糸（百斤に付）ゴロス青紙印	一一二、〇〇円
和染鷄印	一〇六、〇〇
舶來中細	一一五、〇〇
同　極細	一二〇、〇〇
四本撚スコッチ	八二、〇〇
三本撚　同	八五、〇〇
貝綿（一個に付）上々入金	一二〇、〇〇円
上入金	一二五、〇〇
並入金	一〇五、〇〇
松入金	九七、〇〇
竹入金	九二、〇〇
梅入金	八五、〇〇
濱縮緬（百目に付）大巾上駲	五、一〇円
小巾百廿目立	五、五〇
花色絹糸好（一円に付）九十目附	二七、〇〇円
百目附	二八、〇〇
同　小節絹　生八十匁附	一、九〇円
同　本秩父絹　生百四十匁附	三、〇〇円

品名	一月廿八日
製茶（一貫目に付）山城江州稀大頭	二、五五円
同　稀頭	二、一〇
同　大頭	一、七五
同　中頭	一、四五
同　中茶	一、二七
狹山稀大頭	二、〇〇
同　稀頭	一、七三
同　大頭	一、四五
同　中頭	一、三〇
同　中茶	一、〇五
乾海苔（百枚に付）洲崎	五五錢　八〇
大森	三八　八〇
深川砂村	三〇　八五
大師河原	一六　七五
潮田	一六　六〇
鰹節（十貫目に付）土佐上	二三、五〇円
薩摩大	一九、五〇
城の腰	一九、〇〇
房總中	二〇、〇〇
銚子上	一五、〇〇
水戸磐城	一四、〇〇
水油（一樽に付）地水	六、六〇円
胡麻油	九、八〇
荏油	九、三〇
桐油	五、四〇
綿油	…
坂水	七、六〇
石油（一箱に付）チヤスター	一、四九円
デボース	一、五六
ホーキ	一、六五
ロシヤ	一、六五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

愛岐震災自助會

天下無告ノ窮民多シト雖𪜈愛岐兩縣下震災後ノ窮民ニ如ク者ナカルヘシ吾人客冬十一月三日以來此ノ救濟ニ從事シ今其慘憺タル狀況ヲ述フルハ甚タ必要ノ事ナリト思フモ全國ノ新聞紙ハ既ニ之ヲ詳報シ寫眞幻燈ハ之ヲ映出シ實地ノ視察者ハ之ヲ演說シ到ル處人皆之ヲ熟知スルカ如シ故ニ吾人ハ之ヲ言ハサルヘシ然レトモ此ノ窮民ニ對スル善後策ニ至リテハ之ヲ云フモノ稀ニシテ偶マ之アルヲ聞クモ坐上ノ空論ニ涉リ實行ノ期ス可ラサル者多シ如此ニシテ荏苒日月ヲ費サハ今日凍餓ニ瀕スルノ窮民其前途大ニ憂フヘキ者アルナリ於是乎吾人ハ進ンテ率先ノ勞ヲ取ラサル可カラサル必要ニ迫ラレタリ

惻隱ノ情滿腔ニ溢ル丶ノ吾同胞諸士同情ヲ表スル外人這般ノ震災ヲ聞クヤ或ハ金錢ヲ投シ或ハ衣類ヲ醵シ罹災者ノ救濟ヲナス吾人ハ大ニ其ノ親愛ノ厚キヲ謝スルナリ

殊ニ我　皇今上陛下巨万ノ金ヲ下賜セラレ當地人民ハ擧テ皇恩ノ篤キニ感泣シテ止マサルト共ニ我同胞外人ノ義氣ニ富ムヲ感謝シテ措カサルナリ然レ𪜈金錢衣類已ニ限リアリ多數ノ窮民ニ無限ノ衣食ヲ給致スルハ到底出來ヘキ事ニ非ス又施與ノ永久ニ亘ルハ弊害ノ生スル處ナラサルヘカス於是乎志士ノ財囊ヲ解クニ躊躇ヲ生シ仁人ノ衣類ヲ脫クニ傾首ヲ來ス誠ニ當然ノ事ト云フヘシ然レ𪜈一方ニハ衣食ノ消盡カリ一方ニハ取ルヘキ業ナキニ至ラハ此幾万ノ細民ハ將ニ路頭ニ餓死センノミ事茲ニ至ラハ我　皇上ノ叡慮ヲ如何ニセン我同胞外人ノ親愛ヲ如何ニセン思フニ水泡ニ歸センノミ故ニ吾人ハ今日罹災窮民ニ對シテナスヘキ焦眉ノ急務ハ彼等無告ノ窮民ニ一ノ職業ヲ與ヘ自治ノ道ヲ得セシムルニ在ルヲ確信シ客冬十一月二十日ヨリ窮民數名ヲ集メ土地需用ノ竹籠製造ニ從事セシメ只上天ノ祐助ヲ仰キ居リシニ尙皇天此ノ窮民ヲ棄テス客年十二月幼時ヨリ實業ニ熱心ナル貿易燈灯製造家馬場氏大坂ヨリ來リ盡力スル處トナリ猶又勞働者使役ニ老鍊ナル神戶勞働會社ノ江副氏又來リ助クル處トナル於是乎一步ヲ進メ窮民數十名ヲ增加シ此兩業ニ從事セシメ經驗ト伴フテ人員ヲ增シ今ヤ工場狹キヲ告ケ新築ノ中ニアリ爾來ノ經歷ニヨリ未タ其全果ヲ見スト雖𪜈彼等カ流涕以テ日々作リ揚ル處ノ物品ハ以テ輸出スルニ至リ彼等カ勞働ノ結果ハ以テ自活ノ道ヲ得ルアルカ如シ故ニ今後愈窮民ノ友トナリテ是カ爲メニ犧牲トナリ以テ此無告ノ窮民ヲシテ自活安居ノ道ヲ得シメ國家ノ良民タラシメント遂ニ自助會ナルモノヲ設立スルニ至レリ故ニ今後資力ノ許ス限リ其等專ラ外國輸出ノ事業ヲ擴張シ進ンテ全天下無告ノ窮民ヲ救ハントス欲ス然リト雖𪜈元是レ容易ノ事業ニ非ス吾人少數ノ同志豈ニ能クスル處ナランヤ然レトモ又此企圖ヲ空スル吾人同志ノ精神ニアラス故ニ天下ノ志士仁人ニ訴フルニ至レリ噫天下幾百万ノ仁人志士ヨ諸士カ仁義ノ心ハ當サニ此地ニ於テ行フヘシ今ニシテ諸士袖手傍觀スルアラハ吁此幾万ノ窮民ヲ余何セン請フ試ニ此一篇ヲ讀メ

若シ我同胞ノ兄弟或ハ姉妹ニシテ日用ノ糧ニ乏シキ時爾等ノ中誰レカ之ニ安ンシテ行ケ煖レ飽ケヨト言フトモ其身ニ入用ノ者ヲ與ヘスンハ何ノ益アランヤ

讀一讀シ來レハ行ナキノ仁愛ハ只徒ラノミ吁天下幾百万ノ仁人志士ヨ諸士ニシテ此無告ノ窮民ヘ吾人ト同情同感目的ヲ全一ニスルアラハ請フ一滴ノ愛涙ヲ垂レヨ

自助會同士發起人

磯野員爲
江副武矩
馬場勝太郎
宮崎利道

概則

一　目的

震災地ノ窮民ヲ始メトシ全天下無告ノ窮民ニ職業ヲ與ヘ自活ノ道ヲ得セシメ專ラ自助ノ精神ヲ發成シ以テ國家ノ良民トナサンコトヲ期ス

二　維持

天父ノ祐助ト天下志士仁人ノ義捐金品ヲ以テ之ニ充ツ

但如何ナル場合ニモ一切負債ヲ爲サス又本會ノ獨立スルニ至リテハ義捐金品ヲ仰カス

三　入會

八年以上七十年以下鰥寡孤獨及ヒ是ニ類スル無告ノ窮民ニ限リ入會ヲ許ス

四　教養

各自應分ノ勞働ニ從ヒテ之ニ賃金ヲ與ヘ自活ノ余財ハ之ヲ貯金セシメ殊ニ青年男女ニハ日用適切ノ學科ヲ教授シ自助ノ精神ヲ養成ス

明治廿五年一月

大垣廓町

愛岐震災自助會

本會ノ目的ヲ贊成シ金品ヲ惠與シ玉フ諸君ハ一時寄附或ハ定時寄附ヲ論セス凡テ大垣三ツ井銀行支店在勤磯野宛ニテ御送附ヲ乞フ但シ物品ハ本會宛ニテ御寄送ヲ願フ。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治女學校幼年科新設の廣告

本校從來本科の下に豫科を置き高等小學相當の授業致來りしが今の小學教授上德育に慨する所あり又本校主旨とする所の教育を施さんには之を更に幼少なる年代より初めざる可らずと信じ此度豫科の下に更に幼年科を新設し專ら尋常小學相當の授業を爲さまく欲す、左れば六歲家庭の溫養を蒙むり了りたる曉は直に此幼年科に入り追ふて豫科に登らば其後三年にて小學全科卒業の資格を得べし、而して此小學科の科程は無論文部省指定の則に隨ふ、其精神上の修養法に至りては自から世間一般の小學校と趣を異にする者あらん吾輩の精神希望に贊助せらるゝ諸君は請ふ其幼けなき愛孃を來學せしめよ。

月謝三十錢、束脩金なし、冬期薪炭料五錢。

遠路通學しがたき人は本塾に寄宿せしめ年長生徒一名を其保護者となし一切監督す。

右寄宿塾費一ヶ月二圓七十錢、塾費一圓。

東京下六番町六番地　**明治女學校**

女學生廿號目錄（一月發兌）

額上の汗……星野愼

漫錄

病中雜感（苦腸百回、愛の攝理、主と我等、先づ己に反求す、愛と慾、至不至、神の前と人の前、小心と大膽、愛すべき愛よ、烈火と熱涙、最も寂しく最も賑やかなり、德）……山月子

百感雜筆（義は讓るとを爲す、感情は水蒸氣に似たり、浮世書上の難字）……暗光子

雜錄

新年祝……（女子學院）小出千香子

細君（アーピング作下中譯）……（明治女學校）波多野祐子

故山の日……（女子學院）瀧口みか子

新年附錄小說

太刀創……暗光子

一冊六錢　女學雜誌社發兌

女學雜誌社取次書目

金森通倫君著	日本現在及將來之基督敎	一冊	價二十錢
池袋清風君著	淺瀨の波	二冊	同三十錢
花房庸夫君著	明治女大學	一冊	同二十錢
松田敏足君著	女小學躾草	二冊	同四十錢
吉田利行君著	日本女子讀本	三冊	同三十九錢
香月恕潔君著	女子文例	一冊	同二十五錢
安東松次郎君著	貧兒の敎育	一冊	同六錢
湘烟女史君著	善惡之岐	一冊	同三十五錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	一冊	同十五錢
鈴木弘恭大人著	作文口授	一冊	同二十八錢

生徒募集

來二月上旬學期試業後寄宿通學共入學ヲ許ス

明治廿五年一月

麹町區上二番町三十三四番地

女子學院

女學雜誌第十六卷總目錄

自二百七十六號至三百號

社説

吾黨の改革事業 一
婚姻論(六)神聖の事(七)世人無情(八)父母不知 二七
山中獨語(上)教育者至樂の地○我は福音を耻とせず○倫理學 五三
山中獨語(中)人世觀察の秘法○野の花○獨立心 七九
山中獨語(下)女學普及の經綸○ライフ○山中の夕暮 一〇五
各女學校(一)宣教師派女學校 一三一
お轉婆排斥主義とは何ものぞ 一五七
準備無し、安心無し 一八三
文態一新 二〇九
禁酒軍 二三五
學者安身論 二六一
廢娼論同志の人に檄す 二八七
「女學」を講ずるの序 二八七
教育者の快樂 三一五
至誠(孤兒院の設立及び維持) 三四一
天災地變 三六九
自修鍛錬 三九五
震災地善後の策 三九八
震地傳道隊 四二一
第二期帝國議會(議會本年の形勢○正理及び實力○信任の德義 四四七
孤女院の設立(大須賀亮一君の快意信念) 四七三
年暮迫るの感○廢娼論の勢力○三重縣尋常師範學校○奇怪の廣告○震災地廢娼手段○尾濃に於ける救濟及傳道○教徒の非傳道 五〇一
東京府會廢娼建議 五二五
歳晩雜感(心裏不安○窓前の孤木○天空の鳥と野の百合花○反覆再思○歳晩の政況○女學の景勢○女學雜誌 五四九
總撰擧準備中の最大準備 五七三
年頭策士多し 五九七
智、德、勇、 五九九
献身 六二一
實業家候補者 六二三

雜録

杵屋六女 一
偶成(長歌一首) 一四
飜譯新假名つゞり 一四
佛國の小說 一五
日本の婦人を懷ふ 一五
衣裳 三六
弓張月 三九
三嶋町中嶋妓樓小澤精兵衛氏廢業の履歴 三九
外國人の觀察、日本人は哲學者か 六二
年増婦人 六四
笑ひ草(五) 六四
箱根の山づと 八九
氷みづ 九一
春と秋(明治女學校修身科問題六) 一一二
薔薇の殘花 一一五
スポルヂョン 一一六
日本婦人の進步 一一七
天地の美(明治女學校修身問題) 一三四
米國女子大學の秀才 一三六
獨逸國に於ける最近の女論 一六五
支那の婦人(一)支那高名婦人(二)支那の女數 一八九
新習字法 一九〇
歷代皇女の御數 一九二
亡き父 一九二
獨語(夢野の莊平が) 二一二
ウイラード女史家言敎則(上) 二四〇
支那の婦人(四)支那婦德概評(五)婦女子に關する支那法律 二四二
セチツエリチツト 二四三
孤兒院に私生の兒を請くべき乎 二四三
日本女學史料○はしがき(一)日本第一の歷史は女の口より出づ(二)稗田の阿禮 二四四
女性に共同結社の力ありや 二七二
綸常と道德(上) 二七四
ウイラード女史家言(下) 二七六
淚滴々 二七七
女學史料(三)神武帝の鹿鳴館 二七七
鵑の聲 二七八
婚姻 二九四
こつくりさま 二九六
骨相學 二九七
小公子の序 三二九
唐三藏西遊記を讀む 三三〇
小說の要素 三三一
岡山孤兒院報告 三三二
琵琶嶋川 三四八
忠孝の二義に於ける基督敎徒の觀念 三五〇
嗚呼悲哉 三七八
白標の旌 三八〇
震地の慘狀、天下の仁士に告ぐ 三九九
亡き妻 四〇二
全國廢娼同盟會年會の歌 四二九
綸常と道德(下) 四三一
女學史料、天保時代の女子敎育所○矢嶋つる子養蠶の理を說く○矢嶋楫女史幼にして母に叱せらる○矢嶋楫女史東京府講習所に入る(團扇の洋算○鏡の作文○講習所の生徒○中村一家學生となる○敬字翁矢嶋女史に敎ゆ) 四三二
窮民救濟の覺悟 四五七
女學史料(防敎を横濱より迎ふ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○新榮女學校の由來○矢嶋楫女史始て感謝會を司る○新榮女學校のはじめ○矢島楫女史守袋を水中に投す○產婆○男女の湯 四六一
震災救助法に就ての一案 四八五
病中の感 四八五
ロレライの歌 四八六
關ヶ原 五〇九
松岡小鶴女が「南望篇」の自序 五一一
涙滴々(白紙) 五三一
迷兒 五三七
クリスマス 五五二
涙の旅──吾が父 五五四
萬國禁酒會々頭フランセス、ウイラードを訪ふの記 五七六
歲暮の感(七)(明治女學校修身科問題) 五七九
歐洲列國女子高等教育の近況 五八二
震地旅行(人情露發○石井十次君○其決意の動機○除夜の感○元旦ありや○九州骨年○看病婦○小橋勝之介君○孤兒の父母○震因恩見 六〇五
汝が志望を告げよ(四)(明治女學校修身科問題) 六〇八
親に後れたる後の述懐(其二) 六〇九
社會改良の根底は何ぞ(六)(明治女學校修身科問題) 六二七
讀書片々(教育上最良の處○人か紙か○ピウリタン氣性 六二八
マルタとマリア(其上) 六三〇
萬國廢娼會年報を讀む 六三二
岡山孤兒院を見るの感 六三三

兒鑑

小公子(第七回、丙) 七
小公子(第七回、丁) 三一
小公子(第七回、戊) 五七
小公子(第八回、甲) 八五
小公子(第八回、乙) 一〇八
小公子(第九回、甲) 一三八
小公子(第九回、乙) 一六〇
小公子(第十回、甲) 一八六
小公子(第十回、乙) 二二四
小公子(第十一回、甲) 二四六
小公子(第十一回、乙) 二六八
小公子(第十一回、丙) 二九九
小公子(第十一回、丁) 三二〇
小公子(第十一回、戊) 三五四
小公子(第十二回、甲) 三七五
小公子(第十二回、乙) 四〇四
小公子(第十二回、丙) 四二五
小公子(第十三回、甲) 四五一
小公子(第十三回、乙) 四七六
小公子(第十四回、甲) 五〇四
小公子(第十四回、乙) 五二八
小公子(第十五回) 五五八
小公子(第十六回、甲) 五八三
小公子(第十六回、乙)(大尾) 六〇〇
小公子に就て 六二四

隨感

全能者の審判(下) 五
人の意志 四一
日常不斷の修錬 六七
雜事 六八
佳人の歌 六九
人世の別離 九三
普門品經(佛書)を讀む 九四
この心 一一九
筆のしづく 一四四
斷腸 一六七
假聲 二二九
書感 二三八
偉丈夫 二三九
愛の德 二九二
慰藉奬勵の秘訣 二九三
嚴肅にして微笑する人 三三二
寡婦 三五八
かたみの單衣 三五九
芝浦の月見 三八二
如何にして人を知るべき 三八三
余が獲たる所の物 四〇八
謎旋 四〇八
天變と國家 四九一

家政

安產 五四一
うき言の葉 五四一
友の家の慶事 五六四
元日 六一二
叔父を弔ふ 六一三
先づ心に修めよ 六一三
餘るは足らざる事 四二
一日の用事 四二
利益を前用すべからす 四三
新香の物 四三
下女へ申渡しの事 四四
鹽の効用 六五
家婢に質問の事 六六
保姆の乳 一二〇
蘇生して知る親の恩 一四五
女性獨語(一)神を敬ふ處女(二)新婦(三)みもちの婦(四)子を擧げし母 一六八
冬向洋服のつくろひ 二二八
炭にさまざまの用あり 二二八
小供のおもちや 二九一
只一片の慰の言の葉 三五三
看病の樂 四〇三
裁縫試驗問題(二) 四三九
裁縫試驗問題の答 四八四
胎教(身躰上の胎教○心靈上の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

胎教)　五一二
紀伊國屋亦右衛門　五四二
食物店　六一四
看病　六三四
信徒の天然痘看護　六三四

理學

傳染病毒の除滅作用　一七四
空氣の作用　一七四
水の作用　一七四
土地の作用　一七四
冷熱の作用　一七四
除毒劑　一七四
薪、炭、石炭の事　三四五
地震及地皮の移動　三八七
いかにして躰溫は減少するや　五八八

小說

腹中の蛇(一)　一八
腹中の蛇(二)　四六
流れの葦(三節)(港、下)　六九
腹中の蛇(三)　七二
流れの葦(四節)響、(上)　九五
淮北の枳　一二二
流れの葦(四節)(響、下)　一四六
苦患の鎖(其一)　一七一
流れの葦(四節)(池、上)　一九四
苦患の鎖(其二)　一九七
流れの葦(五節)(池、中)　二二〇
苦患の鎖 其三)　二二三
若患の鎖 其四)　二四九
無想劍(第一回)　二六三
流れの葦(第五回)(池、下)　二六六
無想劍(第二回)　三〇三
無想劍(第三回)　三二四
流れの葦(第六回)(源、上)　三二六
無想劍(第四回)　三五九
無想劍(第五回)(結尾)　三八四
流れの葦(第六回)、源、下)　四一一
枯尾花(上)　四八七
枯尾花(下)　五〇七
流れの葦(第七回)(森、上)　六三六

笑ひ草

浮き世　一三四
己の主義を明らかにす　二五三
珍らしき正直者　二五三
價値なる品物　二五三
教師の當惑　二五四
造化の誤謬　二八二
勉强家　二八二
總て者にするを信ずる勿れ　二八三
窓外に戯るゝ兒童の會話(實事)　二八三
手當違ひ　二九八
情に於て忍びず　二九八
景色へ落る勿れ　三六五
士族とは　三六五
肩を持つ　四一六
繊悔　四一六
令孃の日傘　四一六
傳話器に向ふ　四一六
經驗といふ言葉の解釋　四二九
書生と教師　四二九
時計の鎖　四九三
七面鳥　四九三
喧嘩と聖書　四九四
僕の一生涯　四九四
秘密　四九四

文學

和歌數首　一七〇
和歌數首　二〇五
和歌數首　二三〇
シェクスピアの理想　三七三
女性文學史の發端　四八一
俳僧師の妻　五一四
佛蘭西小說　五一五
所云る詩の實際　五三九
至誠と詩歌　五三九
女性文學史(上古)　五八六

史傳

博愛家エリサベス、タムソン夫人　二〇〇
吉田松陰先生妹楫取素彦氏夫人
久子の傳　三三六
岡山孤兒院、西尾勝之助之傳　三四六
二宮尊德翁　四六七

叩扉

英國女俳優中の豪洲　二一七
ラーザ夫人　二七八

批評

非戀愛を非とす　一六
千代見草　一八
蓬分船　一八
進步の燈　一八
壬申の亂　一八
新日本史　四四
大日本農史　四五
農事參考書解釋　四五
雨の日ぐらし　四五
國民之友夏期附錄（吾亡妻〇風流
悟〇雜說〇家屋〇樂天　八四
女鑑　一四二
史海の第四號　一四三
心の露、一名法涙のしたゝり　一四三
自由基督教　一四三
新日本史を讀む　一四三

女學雜誌第三百二號附錄

吉田松陰傳　一七五
傳教　一七六
審事諮問錄　一七六
新誌一覽（洋雞卵の養分〇水泳の論〇盲啞〇同志社卒業生　一七七
茅蘆月旦（一）德富蘇峰氏（二）田口鼎軒氏　二〇三
和田垣博士の婦人論　二〇四
唱歌と禁酒　二〇四
維新豪傑談　二三一
幼稚園切紙　二三一
新誌一覽（日本の花及園藝〇日本正教會史料　二三一
聖武天皇　二五二
新誌一覽（源義經〇佐倉同協社の茶業〇既知文字　二五二
女權　二八〇
遊廓の内幕吉原實記　二八〇
青年唱歌集　二八一
ダーヰン氏自傳　二八一
小說、春廼家漫筆　三三四
うめぞの　三三五
女子消息文かきぶり　三三五
かな習字教育勅語帖　三三五
美術世界卷十一　三三五
聖武天皇　三六二
二宮尊德翁　三六二
天華情　三六三
早稻田文學　三六三
ひつトかひ　三六三
少年之友　三六四
北光會雜誌　三六四
滑稽　三六四
「峡中」を讀む　三六四
基督のすがた　三八九
白河樂翁公と德川時代　三八九
新誌一覽（國民之友）　三九〇
大阪文藝　四一五
看病婦美談　四一五
宇宙　四一五
無形劍を讀んで思へる事　四三四
國華第二十四號　四三五
近世地理學　四三五
修身四書　四三五
新誌一覽（讀書〇我信仰の表白〇北海道〇宗教〇同志社大學の寄附金　四三五
歐米婦人の狀態　四九二
光明皇后　四九三
新著百種の十六號（新世帶）　四九三
和文文章軌範（一名、婦人文範）　五一五
秋戸の月　五一五
和田垣君の答　五一五
新著百種十七號（離れ駕〇朝顏〇ばアや〇碧流　五一六
聚芳十種第七卷（戀の重荷〇七變化）　五一六
聚芳十種第六卷（いさのみだれ）　五一七
日本評論の基督論　五一七
實國及從版權　五一七
女學上の雜誌　五一七
日本歷史　五四四
支那歷史　五四四
亞古士丁　五六四
博愛雜誌　六一五
ユニテリアン　六一五
萬國婦人禁酒會第一總會報告　六一六
誕生日　六一六
漢城の殘夢　六一六
自由黨宣言書　六一六
井筒女の助　六三六
小公子の評（其一）（其二）　六三九

開書

非男尊女卑を論じて和田垣法學博士に質す　三〇六
讀賣新聞記者に告ぐ　四三六
中島信行君に呈す　四五六
片岡健吉君に呈す　四五六
島田三郎君に呈す　四五七
末松井上二君に呈す　四五七
女子高等師範學校の存廢に付、議員諸君に蕪言を呈す　五一八
仁人に告ぐ　五六二

寄書

男尊女卑習慣の近因（上）　七四
故武光道子履歷　九九
男尊女卑習慣の近因（中）　一〇〇
男尊女卑習慣の近因（下）　一五一
文部省方針一定　二五五
東京に遊學する少年の父兄及監督諸君に告ぐ　二六九
咄々怪事　二六九
青年書生の將來　五二一
明治二十四年を送る　五六六
吾は固執の名を甘んず　五八九
一點星　五九三

時事

新官制　二二
新東京府知事　二二
小女略實　二二
廢娼論　二二
風俗取締　二三
刺客　二三
夫婦教員　二三
私立校　二三
學士の譽れ　二三
信任投票　二三
倦々　四九
天下昏睡　四九
野に呼ぶ板垣伯　四九
朝に賜す大隈伯　四九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大先生 四九
短命 五〇
暑休 五〇
所屬問題 七五
勞働者問題 七五
女傳道師 七六
監督へャー氏征く 七六
レピット夫人 七六
兩校長 一〇一
國家教育 一〇一
森林 一〇一
殖民 一〇一
外資輸入 一〇二
俠禪子 一〇二
職工條例 一二七
新博士 一二七
海軍擴張 一二八
北海道 一二八
九月 一二八
女界 一二八
夏期學校 一二八
演說文章 一二八
萬國市 一二九
外勢 一二九
日本の開化 一二九
政務部 一五二
金 一五二
一騎打 一五二
略 一五二
花ガルタ 一五二
風俗取締 一五三
マダム、ブラバツキー 一五三
契婚の破約 一五三
禁酒事業 一五三
パアチル氏の婚姻 一五三
東京府下諸兵の花柳病 一五四
細君女學校 一五四
お轉婆 一五四
信任投票 一五四
本年の議會 一七七
支那文學 一七七
不景氣 一七七
基督教會 一七八
破邪 一七八
アイヌ人の禁酒會 一七八
一宗の亡機大臣の手にあり 一七八
京都府高等女學校 一七九
廢娼運動 一七九
外人不法 一七九
醜業出稼女取締法案 一七九
內外前後 一七九
大快報 二〇五
自由黨と自由俱樂部 二〇五
讀賣新聞と女學生醜聞 二〇五
黑田伯のステツキ 二〇六
博士難 二〇六
婦人矯風會の爲めに辨す 二〇六
鐵道買上 二三二
品川風 二三二
視察域 二三二
秋 二三二
政務部 二三二
狹地少人 二三二
商界一新 二五六
政治家諸君 二五六
山口の演說 二五六
廢知事 二五六
ガバーチス 二五六
婦女子の婦德と職業 二五六
亡兄の遺妻 二五六
村芝居 二五七
小學修身書 二五七
議會に於ける沈默 二五七
支那 二八三
女子の言語 二八三
四面喝采 二八四
石嶋良三郎氏 二八四
對外政略 三一二
新聞紙 三一二
大勢一轉 三一二
武道 三一二
今後の小學校德育 三一二
大祭日の唱歌 三一二
パーチル死す 三一二
自由黨大會 三三七
三對 三三七
支那事件 三三七
東華學校 三三七
女學復興 三三七
本年の議會 三三七
新聞紙上の文字 三六五
廣告 三六五
輿論と議會 三六五
女役者 三六六
高等中學 三六六
大學新設 三六六
平地激變 三九一
義捐金 三九一
安すんぜよ 三九一
全國廢娼同盟會年會 三九一
七日夜七時開場學術演說 三九一
八日夜七時開場政談演說 三九一
兩伯會合 四一七
憲法第六十七條 四一七
海軍熱 四一七
高等中學校 四一七
二の大學 四一七
廢娼記事（全國廢娼同盟會○横濱○尾濃の大怪事○行軍中の廢娼調査○北越○長野○仙臺○年會○建議○廢娼雜誌 四一八
內閣の色 四四〇
大隈伯辭職 四四〇
議會の議案 四四〇
二宮尊德翁 四四一
近江聖人 四四一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

村長	四四一
小學校の德育	四四一
小説上の取締	四四一
文學	四四一
愛國論	四四一
餘震莫くは長かれ	四四二
傑士は小學校を去らん	四四二
少年大に養ふべし	四四二
佳人	四四二
震災地賑恤論	四九四
新聞界	四九四
基督教會の形勢	四九四
女子と新聞紙發行	四九四
議會の戰略	四九五
板垣大隈二伯	四九五
信用組合法	四九五
本年議會の委員	四九五
事後承認	四九六
男學生の柔道	四九六
預算査定案報告	五四四
鉄道國有	五四四
勤儉尙武	五四四
ニコライ氏	五四四
爲尾得庵居士	五四五
谷干城子	五四五
解散	五四五
二伯	五四五
廿二日の議會	五六四
今後の形勢	五六四
鉄道國有	五六五
萬國婦人基督教徒禁酒會第一總會	五六五
同もに新年を迎ふ	五九四
新陳代謝此年の如けん	五九四
年暮年頭何ものをか焚ふ	五九四
今后三月	五九四
遊べ	五九四
何日か攤擧日なる	六一七
民友子と中島議長	六一七
井上角五郎氏の辨	六一七
實業家	六一七
時事翁	六一七
何如にして官黨を増すべき	六四〇
二月十五日	六四〇
震災地の二月末	六四〇
明治二十五年	六四〇
自由黨宣言書	六四〇
陸奥君	六四〇
欠禮	六四一
孤女學院	六四一
賞杯	六四一
實業家相談會	六四一
僧侶の超然主義	六四一
武道	六四一

女報

内外通信あり、日本全國各女學校卒業生姓名一覽あり、震地傳道隊報告あり、

問答

物價

新年附錄

新年附錄の序	廿五年一月分の	一
親に後れし後の述懷	同	一
彼一夜	同	五
人生に寄す	同	八

女學雜誌第三百二號附錄
明治二十五年一月三十日發兌
東京市麴町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

正札引なし

新形
流行

○はをり紐　品々
○帯留類　品々
○時計紐　品々
○メリヤス　品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

組糸老舗　日本橋區よし町　佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

通信女學(第三期生)新募廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆學問と云ふ事に心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進歩目覺しきこととなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學することも出來ず又家に教師を引て教を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年一月通信女學の仕組を新設し、每月一册の講義錄を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其十二月に至り一ヶ年の課業を恙なく卒へて、快よく全科を卒業したる者八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て本年更に講義錄を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し「萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、衛生、育兒、看病と合す)裁縫、圖入地理、英學。敎師は醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田伸子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の教員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。代價一册前金三十二錢(無郵税)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し以後每月廿五日出版して翌一ヶ月の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

保險附風琴各種精製廉價販賣ス

麹町區三番町四番地

田中風琴製造所

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

合本 こども

自第七號至第十二號
自第十三號至第十八號

一冊定價金貳拾錢
郵稅無料

こども諸君の賢明なる家父、慈愛なる阿母、嚴正ある教師、親切なる兄姉、愛すべき弟妹、善良なる保姆、正直なる益友たるとを期す。

此合本は美麗にして愛しき小冊子なり。中にはおどけなく面白い話のかずゝゝ美しい繪、爲になる考物あり。此本を中にして一家の長幼寄りつどひ遊ぶときはカルタ、トランプよりも遙にまさりて面白く高尚なる慰みなるべし。

每月二回。第貳拾五號二月十日發兌。

一冊金四錢　六冊金貳拾二錢　十二冊金四十錢　郵稅一冊五厘

爲替拂渡駒込郵便局

發行所　東京北豐島郡上駒込村　電話四三八番　少年園

獨逸ザイデル氏原著　日本伴輝吉氏譯述

幼稚園實用問答

正價三十錢　郵稅四錢

圖入　唱歌付美本　下編續出

本書ハ獨乙國「フレーベル」協會々長「ザイデル」氏ノ著ニシテ幼稚ノ由來及ビ組織園兒ノ保育法遊戲法其他諸種ノ玩具ナドニ付キ評論セル者ナリ伴氏或緣故ニヨリ此書ヲ得ラレ其大ニ益アルヲ信ジ這回之ヲ問答躰ニ至テ平易ニ譯述セラレタリ幼稚園ノ改良進歩ニ汲々タル今日教育者タル者常ニ坐右欠ク可ラザルノ良書ナリ

發行所　日本橋區大傳馬町一丁目卅番地　中村善七

發賣所　神田區柳原河岸　普及舍

賣捌所　敬文堂○中西屋○小林新兵衞○丸善

看護婦派出廣告

看護婦或ハ產婆入用ノ節ハ御依賴ニ應シ本會ヨリ派出可致申候

但貧困者ハ無給料ノ事

東京本鄉區森川町一番地第百七十號　慈善看護婦會　鈴木雅

產婆開業

本鄉森川町一番地百七十號　玉生くに

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

風琴各種[illegible]廉價販賣

風琴直シ御報知次第直ニ參上極廉價ニ修覆可仕候

麹町區三番町四番地　田中風琴製造所

合本　こども

自第七號至第十二號
自第十三號至第十八號

一冊定價金貳拾錢
郵稅無料

此合本は美麗にして愛しき小冊子なり。中にはあどけなく面白い話のかずかず美しい繪、爲になる考物あり。此本を中にして一家の長幼寄りつどひ遊ぶときはカルタ、トランプよりも遙にまさりて面白く高尙なる慰みなるべし。

こども諸君の賢明なる家父、慈愛なる阿母、嚴正なる教師、親切なる兄姊、愛すべき弟妹、善良なる保姆、正直なる益友たるとを期す。

毎月二回。第貳拾五號二月十日發兌。

一冊金四錢　六冊金貳拾二錢　十二冊金四十錢
一冊五厘　爲替拂渡駒込郵便局　郵稅

發行所　東京北豐島郡上駒込村　電話四三八番　少年園

幼稚園實用問答

定價三十錢
郵稅四錢

圖入　唱歌付美本　下編續出

本書ハ獨乙國「フレーベル」協會々長「ザイデル」氏ノ著ニシテ幼稚ノ由來及ビ組織園兒ノ保育法遊戲法其他諸種ノ玩具ナドニ付キ評論セル者ナリ伴氏或緣故ニヨリ此書ヲ得ラレ其大ニ益アルヲ信ジ這回之ヲ問答體ニ至ア平易ニ譯述セラレタリ幼稚園ノ改良進步ニ汲々タル今日敎育者タル者常ニ坐右欠ク可ラザルノ良書ナリ

發行所　日本橋區大傳馬町一丁目卅番地　中村善七

發賣所　神田區柳原河岸　普及舍

賣捌所　敬文堂○中西屋○小林新兵衞○丸善

看護婦派出廣告

看護婦或ハ產婆入用ノ節ハ御依賴ニ應シ本會ヨリ派出可致申候

但貧困者ハ無給料ノ事

東京本鄉區森川町一番地第百七十號　慈善看護婦會　鈴木雅

產婆開業

本鄉森川町一番地百七十號　玉生くに

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　嚴本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY